

作者覚書

この劇を上演する際、最も問題となるのは、二つの異なる時代のあいだの場面転換、衣裳替えを効率よく行なうことだろう。この問題の処理は演出家や美術家次第だが、いくつか考えを記しておく。

劇の冒頭は、一九五〇年代に上演される一九五〇年代の客間劇を見ているように感じられるのいいだろう。ただし、劇が進むにつれ、その世界はゆっくりと崩壊し、ばらばらになっていく。家具や壁は次第に消えていき、後半になるとさまざまな場所へ移っていく。つまり説明的であったセットが場所を暗示するものとなっていく。ベンチ一脚で公園を表わし、ソファ一脚でシルヴィアのアパートを表わすのである。

一つの案としては、衣裳替えをうまく利用すること——できれば舞台上で行ない、観客にも一部見えるようにするといいたいだろう。より様式的な方法。そうすれば、連続する場面で俳優が異なる時代の役を演じる場合に役立つだろう。

最も重要なのは合流していくこと。二つの異なる時代が互いに溶け合っていくことだ。彼らは、外見でははっきり異なっているけれども、精神ではお互いを知っている——一人の若い女性のとおりには、成長した彼女の自我が立っているのだ。衣服がちがう、ヘアスタイルがちがう、肌のきめがちがう……けれども目だけは同じだ。過去は亡霊となって現在に姿を現わし、同時に現在は先見の亡霊となって過去に姿を現わすのである。

登場人物

一九五八年	
オリヴァー	三十代半ば
フィリップ	三十代半ば
シルヴィア	三十代半ば
医者	三十代後半
二〇〇八年	
オリヴァー	三十代半ば
フィリップ	三十代半ば
シルヴィア	三十代半ば
男	
ピーター	

二つの時代のオリヴァー、フィリップ、シルヴィアは同じ俳優が演じる。一人の俳優が医者、男、ピーターを演じる。

場所

ロンドン

時

一九五八年と二〇〇八年

第1場

一九五八年

ロンドンにあるフィリップとシルヴィアのアパート。
ドアがノックされる。フィリップ登場し、玄関ドアを開ける。オリヴァーが着いたところである。

1 オリヴァー
フィリップ。

2 フィリップ
オリヴァー。

3 オリヴァー
うん。

4 フィリップ
ついに。

5 オリヴァー
うん。

6 フィリップ
いろいろ聞いてるよ。

7 オリヴァー
いろいろ？

12 フィリップ
シルヴィアはいつも君の話をしてる。

13 オリヴァー
本当に？

14 フィリップ
おかげで嫉妬しそうだ。

15 オリヴァー
その必要はないよ。

16 フィリップ
君を天才だと思ってるらしい。

17 オリヴァー
僕にもいろんな顔があるけれど、天才だけはちがう。

18 フィリップ
普通じゃないって。

19 オリヴァー
そう？

20 フィリップ
普通とはちがうって。

わずかな間。

21 フィリップ
コート預かろう。

22 オリヴァー
ありがとう。

オリヴァー、コートを脱ぎ、フィリップに渡す。フィリップはそれをていねいに掛ける。

23 フィリップ
ご婦人は少々遅れてるらしい。フェイス・ペイントってやつだな。

24 オリヴァー
僕が早く着いたから。

25 フィリップ
いや。時間どおりだ。

26 オリヴァー
歩いてきたんだ。もうすこしかかると思ってた。

27 フィリップ
気持ちいい夜だ。

28 オリヴァー
うん、雨は降ってない。

29 フィリップ
メイダ・ヴェールからずっと？

30 オリヴァー
そう、メイダ・ヴェールから。

31 フィリップ
公園を抜けて？

32 オリヴァー
そう。

33 フィリップ
ずいぶん歩いたね。

34 オリヴァー
楽しかった。

35 フィリップ
いい季節だし。

36 オリヴァー
花が咲き乱れてた。

37 フィリップ
いいね。

わずかな間。

38 フィリップ 飲みもの、何にしよう？
39 オリヴァー スコッチは？
42 フィリップ 僕もそうしよう。

フィリップ、小さなドリンクテーブルへ行き、二人分の酒を注ぐ。

43 フィリップ 彼女、君の物語は素晴らしいって。
44 オリヴァー 精神をとらえてくれている。
45 フィリップ 本当に好きらしい。その本がね。
46 オリヴァー 彼女、すごく、すごく才能がある。
47 フィリップ 話し出したら止まらないんだ。何か、花園のこと。
48 オリヴァー まあ、どちらかと言えばジャングルだけど。
49 フィリップ ジャングル。
50 オリヴァー イギリスのと真ん中のジャングルと言おうか。それかせめてうっそうとした熱帯の花園か。
51 フィリップ なぜ児童文学の作家は花園を好むんだろう？ やたらと書かれているようだけど。たいてい、秘密の花園ってやつだな。
52 オリヴァー たしかに。

53 フィリップ まあ、おかげで彼女は大忙し。妙な生きもののスケッチがあちこちに散らばってる。このあいだなんか、ぎょっとする絵がバスルームにあった。頭が二つあるアンテロープみたいな。きつとベリーフィンチだ。金曜の朝に見せてもらうことになってるやつだ。
54 オリヴァー ベリーフィンチ、それだ。それにひきかえ、僕の人生なんて味気ないものに見えるだろうな。
55 フィリップ 味気ない人生なんてものではないよ。
56 オリヴァー 君は生活のために不動産を売り歩いたことがないだろう。
57 フィリップ 未開拓ならまだしも、味気ないなんて。
58 オリヴァー

フィリップ、オリヴァーに飲みものを渡す。二人座る。

59 フィリップ 君のような人には会ったことがない。作家にはね。
60 オリヴァー そう？

61 フィリップ 一人、母の気色悪い友人を除いては、お菓子の焼き方の本を出してる。
62 オリヴァー お菓子の焼き方？

63 フィリップ 重要な本とは言えないだろうね。

64 オリヴァー それは少々失礼だよ。お菓子の本は悪くない。

65 フィリップ これまで書いたのは子供の本だけ？

66 オリヴァー だいたい。旅行書も二冊。

67 フィリップ シルヴィアが言ってた。一冊はアテネの。

68 オリヴァー 一年住んでた。

69 フィリップ もう一冊は？

70 オリヴァー もう一冊はレバノン。

71 フィリップ レバノン？

72 オリヴァー でも主に惹かれるのは子供の本。

73 フィリップ なぜだろう。

74 オリヴァー わからない。思うに自由奔放にやりたいってことかな。

75 フィリップ 自由奔放？

76 オリヴァー 可能性が無限だから。大人の小説の決まりごとや因習にはとても大きな束縛を感じる。

77 フィリップ そうなんだ。
 78 オリヴァー おしゃべりするトラや魔法の鏡の世界のほうがずっと楽しい。力を発揮できる。
 79 フィリップ なるほど。
 80 オリヴァー 一つの日か大人の小説を書くことがあれば、想像力をもっと華やかに飛躍させることになるだろうけど、当面は十二歳未満の読者で満足だよ。
 81 フィリップ まあ、屋根のある場所には住んでるようだ。
 82 オリヴァー 雨漏りはしても、どうにかнатてる。
 83 フィリップ じゃ、とりあえず本に。
 84 オリヴァー 本に。

二人は乾杯する。

85 フィリップ 不思議だ。
 86 オリヴァー 何が？
 87 フィリップ ドアを開けたとき。
 88 オリヴァー 何？
 89 フィリップ 君に見覚えがある、ってことかな。
 90 オリヴァー ああ、僕もそう思った。
 91 フィリップ 君も？
 92 オリヴァー うん、思った。
 93 フィリップ まあ、出くわしたことはあるかもしれない。地下鉄かどこかで。
 94 オリヴァー かもしれない。
 95 フィリップ 不思議なことは起きるもんだ。

シルヴィア登場。夜の外出のために洗練された服装をしている。

97 シルヴィア (オリヴァーに) 訊問されてたんじゃない？
 98 フィリップ 容赦なく。
 99 オリヴァー やあ、シルヴィア。
 100 シルヴィア 男のくせにヤキモチ焼きなの。
 101 フィリップ 猛烈に。
 102 シルヴィア すぐかっとなるの。フィリップ、お願い。

ドレスのいちばん上のホックを留めてもらおうと、フィリップに背を向ける。

103 シルヴィア これでもたまには役に立つのよ。お酒は出したみたいね。
 104 オリヴァー 完璧なおもてなしだよ。
 105 シルヴィア ならしつけたかいがあったわ。
 106 フィリップ 飲み込みは早いんだ。ジン？
 107 シルヴィア お店の予約、八時よ。
 108 フィリップ 軽く一杯。
 109 シルヴィア ありがとう、あなた。

フィリップはバーへ行き、彼女の分を注ぐ。

110 フィリップ 君がオリヴァーの話しかしないって言ってたところさ。
 111 シルヴィア わたしが恥をかくようなことは言っていないでしょうね、雇い主の前で？

112 フィリップ
 113 シルヴィア
 114 オリヴァー
 115 シルヴィア
 116 フィリップ
 117 オリヴァー
 118 シルヴィア
 119 フィリップ
 120 シルヴィア
 121 オリヴァー
 122 フィリップ
 123 シルヴィア
 124 フィリップ
 125 シルヴィア
 126 フィリップ
 127 シルヴィア

どうかな。
 わたし、ちょっと張り詰めてたのよ。なぜかしら。
 緊張？
 二人が会うこと。
 (オリヴァーに) だから先延ばしにしてたんだな？
 なるほどね。
 馬鹿みたい、ほんと。たぶん、気が合えばって思っただけ。
 僕らはよろしくやってたよ。
 お互い好きになれば、ってね。
 そうならない理由はない。
 君たちが僕に隠れて燃えるような情事にふけていたことがバレないかぎり、大丈夫。
 言っただけでしょ、彼のユーモアのセンス。
 ユーモアのセンス？
 その欠如、というべきね。
 残酷だな。
 正直なだけ。

ややぎこちない間。フィリップはシルヴィアに飲みものを渡す。

128 シルヴィア
 129 フィリップ
 130 オリヴァー
 131 シルヴィア
 132 フィリップ
 133 オリヴァー
 134 フィリップ
 135 シルヴィア
 136 フィリップ
 137 オリヴァー
 138 シルヴィア
 139 フィリップ
 140 オリヴァー

イタリア料理は好きかしら、オリヴァー。
 すぐその小さな店を予約したんだ。
 いいね。
 フィリップはいつも馬鹿にするんだけど、わたしはチャームिंगなお店だと思うの。
 真っ赤っかなんだ。何もかも赤い。
 多少の赤は悪くない。
 壁もテーブルクロスもウェイトアの顔も。何もかも真っ赤。
 フィリップは、絶対にイタリア人じゃないって。
 ユーゴスラヴィア人だよ。絶対ユーゴスラヴィア人。イタリア人のふりしてる。
 興味深いね。
 料理はいけるの。
 強いセルビア風味。
 それはおいしそうだ。

三人が座るわずかな間。

141 オリヴァー
 142 シルヴィア
 143 オリヴァー
 144 シルヴィア
 145 フィリップ
 146 シルヴィア
 147 オリヴァー
 148 シルヴィア
 149 フィリップ
 150 オリヴァー
 151 シルヴィア
 152 フィリップ

すごくうれしいよ、ベリーフィンチをお宅のあちこちで見かけると聞いて。
 まだスケッチの段階だけど、もうすぐよ。
 待ち切れない。
 金曜までにもうすこし固まれば。いまは紫がちょっと強すぎて。
 そのベリーフィンチとジャングルの話、気になるな。早く読んでみたい。
 まあ、辛抱してくれないとね？
 あとすこし。
 あとすこし。それまでは、詮索禁止。
 僕は悪くない。君がああぎょつとする絵を家じゅうに置きっぱなしにするからだろ。
 詮索好きなんだ？
 とってもたちが悪いの。
 バスルーム。ソファ。冷蔵庫のなかまで。

153 オリヴァー
 154 シルヴィア
 155 フィリップ
 あれはまいった。
 156 シルヴィア
 玄関のベルが鳴ってて。夕食つくってて。ちょっとうっかりしただけ。
 157 フィリップ
 君の物語が我が家を侵略したんだ。なのに僕が非難されてる。
 158 オリヴァー
 申しわけない、謝るよ。
 159 フィリップ
 ならば赦そう。

彼らは笑う。間。

160 フィリップ
 僕は君たちがうらやましいんだよ。
 161 オリヴァー
 うらやましい？
 162 シルヴィア
 いったい何が？
 163 フィリップ
 いや、だから、君たちの仕事。何かをつくるってことかな。生活のための仕事にそれなりの情熱を注げること。
 164 オリヴァー
 情熱でもない。孤独のほうが。
 165 シルヴィア
 フィリップは自分の仕事にとっても不満なの。そうでしょう？
 166 フィリップ
 僕は家売ってるんだ、オリヴァー。
 167 オリヴァー
 言ってたね。
 168 フィリップ
 家やアパートを。
 169 シルヴィア
 これだけはわかってあげて、フィリップがいまの仕事に就いたのは事故のようなものの事故？
 170 オリヴァー
 父が死んだんだ。
 171 フィリップ
 フィリップがまだ二十一のとき。
 172 シルヴィア
 僕は大学を出たばかり。
 173 フィリップ
 お父さんは長年不動産売買の会社を経営してたの。フィリップのお兄さんが継ぐことになった。
 174 シルヴィア
 そう、兄はそうなるように仕込まれてた。父は兄を仕込んでた。僕は使えないやつだった。ふらふらしてたというか。
 175 フィリップ
 でもその二年後、ロジャーが死んだの。
 176 シルヴィア
 兄のね。
 179 フィリップ
 自動車事故。ひどかった。
 191 シルヴィア
 僕は母を養わなきゃならなかった。
 192 フィリップ
 妹も。
 193 シルヴィア
 だから選択の余地がなかった。
 194 フィリップ
 たまに思うの、あなたはもうしてただろう。何になっていただろう。事情が違っていたらね。
 195 シルヴィア
 さあ、僕にもわからない。移住してたかな。
 196 フィリップ
 移住？
 197 オリヴァー
 覚えてる、アフリカへ引っ越すって考えに取り憑かれたこと？
 199 シルヴィア
 アフリカ、うん。
 200 フィリップ
 手当たり次第に本を読んだ。ケニアの本、ローデシアの本。うちじゅうに転がってた。
 201 シルヴィア
 アフリカは僕も行ってみたい。
 202 オリヴァー
 ブライトンより遠くへ行ったことはないけどね、僕は。
 203 フィリップ
 いつの日か。
 204 シルヴィア
 いつの日か。
 205 オリヴァー
 そして目を覚ますと、客を空き家へ案内することに人生の大半を費やしてる。
 206 フィリップ

207 シルヴィア
もつとさえない人生もあるわ。
208 フィリップ
そうかな？
209 オリヴァー
シルヴィアが正しいよ。
210 フィリップ
(やさしく) 彼女はいつでも。

間。

203 フィリップ
でも君のほうは、オリヴァー、ブライトンよりも遠くへ行ってる。
204 オリヴァー
何カ所か。
205 シルヴィア
もう、謙遜しないで、ありとあらゆるところでしょ。
206 オリヴァー
そうでもないよ。
207 シルヴィア
オリヴァーはギリシャに住んでいたの。
208 フィリップ
ああ、さっき彼が……
209 シルヴィア
イタリアにも。ベイルートにも。シリアにも。
210 オリヴァー
世界のどこよりも親しみを感ずる地域でね。
211 フィリップ
興奮するね。住んだことがあるなんて。
212 シルヴィア
オリヴァーはアテネを拠点にしていたの。
213 フィリップ
素晴らしい。
214 オリヴァー
アクロポリスのふもとの小さな家に住んだ。ネズミはいたけど、すごくチャームングで。
215 シルヴィア
なんてロマンティック。
216 オリヴァー
キッチン窓から首を出せば、パルテノン神殿がちらっと見える。
217 フィリップ
パルテノン神殿。
218 シルヴィア
フィリップとわたし、ギリシャまでドライブするのいつの日か、そうよね？
219 フィリップ
君がそう言うなら。
220 シルヴィア
フランスからイタリアへ抜けて、アドリア海を渡って。
221 フィリップ
いつの日か。
222 シルヴィア
それから島をめぐる。
223 オリヴァー
どの島もきれいだよ。
224 シルヴィア
フィリップ、わたし、『オデュッセイア』、チェスボード。
225 フィリップ
ジンも忘れずにね。
226 オリヴァー
ジンも忘れずに。
227 シルヴィア
いつの日か。

間が空いてしまう。シルヴィアがふと何かを思い出す。オリヴァーのほうを向く。

228 シルヴィア
話してあげて、デルポイのこと。
229 フィリップ
デルポイ？
230 シルヴィア
そう、デルポイ。あの話、デルポイであなたに起きたこと。
231 オリヴァー
ああ、あれ……
232 シルヴィア
デルポイの啓示。
233 フィリップ
デルポイの啓示？
234 シルヴィア
オリヴァーがとっても素晴らしい話を……
235 オリヴァー
大した話じゃない。
236 フィリップ
デルポイの啓示。
237 シルヴィア
素晴らしいのよ。
238 フィリップ
怪奇小説のタイトルみたいだ。『デルポイの啓示』。
239 オリヴァー
どうかな、フィリップは……

240 シルヴィア このあいだ休憩中、オリヴァーがデルポイに行った話をしてくれたの。
 243 フィリップ いいね、ぜひとも。
 244 オリヴァー いや、ほんとうに……
 245 フィリップ 頼むよ。
 246 オリヴァー そう興奮することでも興味深いことでもない。実際大した話じゃない。ただ不思議なことが
 起きただけで。
 247 フィリップ 拝聴したいね。
 248 オリヴァー がっかりするよ、たぶん。
 249 シルヴィア もう、話して、オリヴァー。
 250 オリヴァー うん、デルポイは、ギリシャで最も訪ねてみたい場所、遺跡の一つだったんだ。
 251 シルヴィア 神託。
 252 オリヴァー そこで僕はアテネからおんぼろの古いバスに何時間も揺られて、曲がりくねった山道を行っ
 た、たしか着くころには日が暮れかけていて、バスを降りると小さなホテルの真ん前。ホテ
 ル・ゼウスとかいう。外国人がほかにも何人かいた——アメリカ人の老夫婦、ドイツ人、イギ
 リス人も何人か、そこに一人、耐えがたい女性がいてね、大きくて偉そうな声と自信満々な
 意見をもち合わせてる。
 253 フィリップ 最高の組み合わせとは言えないね。
 254 オリヴァー みんなで軽い夕食を済ませて、すぐに寝た。
 255 フィリップ もう釘づけだよ。
 256 オリヴァー で、翌朝目を覚まして、よろい戸を開けると、もう……その眺めはまさに……
 257 シルヴィア 息を呑む。
 258 オリヴァー まさに息を呑む眺めだった。つまり、どんな言葉でも足りない。表現のしようがない。行っ
 てその目で見ないと。あれを信じるには。
 259 フィリップ いつの日かね。
 260 オリヴァー 景色がね、あの構図。とても、とても劇的で。山の高いところにいるから、峰を見上げれば
 雪が残っている、でも眼下を見渡せば、斜面に広がるオリーブの林が銀に輝いて、海が見え
 る。
 261 シルヴィア なんて美しい。
 262 オリヴァー コリント湾の水面^{みなも}が見える。そこには何か目を見張るものがあるんだ。つまり、真に、真に
 美しいもの。するとわかってくる、なぜギリシャ人はそこを神託を聞く場所を選んだか。た
 ぶんこれほど美しく静かな場所なら何かの訪れを感じられる。自分の時間から連れ出しても
 らえる、時間のそとへ。
 263 フィリップ それでおしまい？ 君の啓示は？
 264 オリヴァー まだこれからだよ。
 265 シルヴィア もう、フィリップ、聞いてあげて。
 266 オリヴァー で、朝食のあと、古代劇場や神託所跡のほうへ行っただけけど、アメリカ人の老夫婦もつ
 いてきた。たぶん僕を学者か何かだと思ったんだろう。質問してきてはがっかりするんだ、
 267 シルヴィア 僕の答えが思ったほど詳しくないものだから。
 268 オリヴァー たしかにそう見える。特に眼鏡をかけてると。
 結局、厄介払いできたけどね。どこかでいなくなって、一人で回ることができた。すこし
 269 フィリップ ほっとしたね。
 270 オリヴァー そりゃそうだ。霊的体験を味わうのに、アメリカの観光客が至近距離にいたら困るだろう。
 とにかく遺跡のなかをぶらついてみた。一人つきりで、それはもう、とても静か。聞こえて
 くるのはセミがじりじり鳴く声だけ。そよ風が木々を揺らす音も。歩きながらちょっと放心
 271 フィリップ してきた、本当に。
 いよいよ啓示の訪れか。

272 オリヴァー
273 フィリップ
274 オリヴァー

そこで聞こえたんだ。
それきた。
たぶんそれは声としか言いようがない。普通の意味での声じゃない。即座に声とわかるものではなかった。

まさか例のアメリカ人の声とか？

もう、フィリップ、静かに。

275 フィリップ
276 シルヴィア
277 オリヴァー
278 フィリップ
279 オリヴァー
280 オリヴァー

じつと立っていたら声が聞こえた。その声はこんなことを——何も心配はいらないって。心配はいらない？何が心配いらないって？

うん、いつの日か、何年も何年も先のこともかもしれないけれど、いくつかのことがらが理解されるようになる、いま僕らが感じる困難も、いま僕らがしがみつく恐怖も、いま僕らが眠れない夜も、無駄ではなかったと思える日が来る……その時代を生きる人々は、五十年先、五百年先かもしれないけれど、その理解のおかげで幸せになってる、賢くなってる。より善き人間に。

281 シルヴィア
282 オリヴァー

素晴らしくチェーホフ的ね。

しかもなんだかその声は、まさにその未来から届くような気がした。いわば、未来の目覚めた僕らから。これでおしまい。これが僕の啓示。

283 シルヴィア
284 フィリップ

人の心に何かを残す場所ってあるわ。人の心に触れる場所。

たしかに、わかるよ。想像つかないからね、この近所でそんなふうに開眼するなんて。

285 オリヴァー
286 フィリップ

ナイツブリッジならまだしも、ピムリコではね。

287 シルヴィア
288 オリヴァー
289 シルヴィア

ただど教えてほしかったな、今晚ディナーするお相手がしょっちゅうお告げを聞く男だって。もっと覚悟しておいたのに。

もう、フィリップ、失礼よ。

本当に恥ずかしくなってきた。

そんな、いいの。ふざけてるだけよ。

三人笑い、そして間がある。

290 シルヴィア
291 オリヴァー

そろそろ行かないと。

うん。

292 フィリップ
293 シルヴィア
294 フィリップ
295 シルヴィア
296 フィリップ
297 シルヴィア

ユーゴスラヴィア人を怒らせたら大変だ。

もうやめて。カーディガン取ってこなきゃ。すぐ戻る。

二人きりにされちゃ困る。間がもたないよ。

そんなことないでしょ。

まあ、とにかく急いだ。

わかった、わかった、いじめないで。

シルヴィアが部屋を出ると、男二人が残される。間。

303 フィリップ
304 オリヴァー
305 フィリップ

この仕事、シルヴィアにはすごく大切なんだ。すごく楽しんでるよ、君との仕事を。

僕にとってもすごく大切だよ。

306 オリヴァー
307 フィリップ
308 オリヴァー
309 フィリップ

一つの企画にこれほど打ち込んだことはなかったと思う。しかもこれほど恵まれたタイミングで。

タイミング？

彼女には必要だった、いろいろあったあとだったから。

体調がよくなかったとは言っていたけど。

うん。

ぎこちない間。

昔女優だったのは知ってるだろう？

彼女から聞いた。

挿絵画家を始める前。

うん。

二、三年だけど。

舞台の彼女を見てみたかった。

でもやめることにした。彼女いわく、二人のために。

そう。

でもある意味こわくなったんだろう。

こわくなった？

抜群だったんだ。おそろしいくらい、本当にうまかった。人物になりきる。その人の人生に入り込むんだ、どっぷりと。あの想像力だから。

すぐくよかつたろうね。

でもやっぱり、ああいう世界は……

演劇の？

得意じゃなかったんだ。きっと。

そうなの？

でも本当にうまかった。本能、かな、直感。そして共感する力。そういう資質。

たしかに。

でも賢明だったよ。

賢明？

やめたのはね。

そう？

繊細だから。

間が空いてしまう。

眠れない夜があるんだ、君には？

失礼？

さっき言ってたね。話の中で。神託の。たしかこう言ってた、いくつかのことがらが理解されるようになる、いま僕らが眠れない夜も無駄ではなかったと思える日が来るって。

ああ。

だからよくあるのになって。眠れない夜が。

たまにね。

あのベリーフィンチどもが脳内を漂ってるんだな。

かもね。

長い間。何かが起きたのである。そこへシルヴィアが登場する。

お待たせ。

そろそろだ。

素敵だよ。

ありがとう、オリヴァー。

310 フィリップ
311 オリヴァー
312 フィリップ
313 オリヴァー
314 フィリップ
315 オリヴァー
316 フィリップ
317 オリヴァー
318 フィリップ
319 オリヴァー
320 フィリップ
321 オリヴァー
322 フィリップ
323 オリヴァー
324 フィリップ
325 オリヴァー
326 フィリップ
327 オリヴァー
328 フィリップ
329 オリヴァー
330 フィリップ
331 オリヴァー
332 フィリップ

333 フィリップ
334 オリヴァー
335 フィリップ
336 オリヴァー
337 フィリップ
338 オリヴァー
339 フィリップ
340 オリヴァー

341 シルヴィア
342 フィリップ
343 オリヴァー
344 シルヴィア

間。

345 シルヴィア わたし考えていたの。

346 フィリップ 何を？

347 シルヴィア とっても大事な夜になるって。

348 フィリップ そうかな？

349 シルヴィア わたしにとって。わたしたち三人にとって。

350 フィリップ どうして？

351 シルヴィア さあ、わからない。

352 フィリップ 鍵は持った？

353 シルヴィア ええ。

354 フィリップ じゃ行こう。

三人はドアのほうへ行く。

360 フィリップ コート忘れないで。

361 オリヴァー あったかくはないよ。

シルヴィアはコートを取る。三人はドアを開け、出ていこうとする。

362 フィリップ で、どうして大事な夜になるの？

363 シルヴィア 気にしないで。声に出して考えただけ。

364 オリヴァー よくそうするんだ？

366 フィリップ 変人なんだ。

367 オリヴァー そうなの？

368 シルヴィア 意地悪はやめて。

369 フィリップ 変人なんだ。

三人はドアを閉めて去る。

第2場

二〇〇八年

一人の男が登場する。男はナチスの制服を着ている。まだ薄暗いうちにオリヴァーが登場するが、今度は下着姿である。拘束されている。

1 男 顔上げんじゃねー、メスブタ。

2 オリヴァー すみません。すみません。

3 男 上げんなって。

4 オリヴァー すみません。

5 男 絶対上げんじゃねーぞ、クズのメスブタ。お前は何だ？

6 オリヴァー 僕は何だ？

7 男 お前は何だ？ 自分が何だか言ってみろ！

8 オリヴァー 僕は何か。

9 男 何だか言ってみろクソつたれ、この変態のメスブタ。

10 オリヴァー 自分はド変態のメスブタです。

11 男 よおし、その調子だ。さあ、俺のブーツなめろ。

オリヴァーは身を乗り出し、男のブーツをなめようとするが、やめてしまう。

12 オリヴァー オッケー、ごめん、もういいよ。

13 男 黙ってなめろ。

14 オリヴァー いやマジで、やめてくれる。お願い。タイム。ストップ。アブラカダブラ。

15 男 アブラカダブラ？

16 オリヴァー そう。お願い。ストップ。アブラカダブラ。ほんとにアブラカダブラ。

17 男 (本来の案外キャンパなロンドン訛りで) お金は払ってよ。

18 オリヴァー うん。

19 男 だってここまで来んのに二時間かかったんだよ。アールズコートから。

20 オリヴァー うん。地下鉄。立ち往生したって。さっき聞いた。

21 男 濡れたし。びしょびしょに。

22 オリヴァー ごめん。

23 男 びしょ濡れだよ。

24 オリヴァー うん。

25 男 お金払ってよ。

26 オリヴァー もちろん。もちろん払う。

27 男 遠いところ来たんだから。

28 オリヴァー わかっている。

間。

29 オリヴァー ちょっと気分じゃなくて。電話しなきゃよかった。退屈してて。

30 男 あっそ。

31 オリヴァー ちょっとさみしくて。

32 男 みんなそうでしょ。

33 オリヴァー ちょっと酔ってたのかも。

34 男 わかったよ。

間。

35 オリヴァー 一杯いっしょにどう。
36 男 お金払うよね。
37 オリヴァー せっかくだし。
38 男 まだザーザー降りか。
39 オリヴァー スコッチでも。
40 男 まあ、だったら。

オリヴァーはスコッチを注いでやり、グラスを渡す。二人はしばらく黙ったまま座り、
雨音を聞く。

41 オリヴァー 超うまかったよ。迫真ってゆーか。
42 男 ああ。
43 オリヴァー 言葉責めから何から。
44 男 ありがと。
45 オリヴァー どういたしまして。

間。

46 オリヴァー 写真もイケてる。ネットの。
47 男 よく言われる。
48 オリヴァー あのジャーマン・シェパード飼ってるの？
49 男 お姉ちゃんの。
50 オリヴァー 連れてきたらどうしようって。
51 男 ああ。
52 オリヴァー 効果はあったけど。

間。

53 オリヴァー 役者さん？
54 男 だった。
55 オリヴァー やっぱり。
56 男 いまいち食ってけなくて。
57 オリヴァー 舞台の？
58 男 だいたいはい。あちこちで。ノーサンプトン。ブリストル。イプスウィッチ。
59 オリヴァー 地方ね。
60 男 コマーシャルも一回やった。ドッグフードの。ぼろ儲け。
61 オリヴァー どうりで見覚えが。
62 男 あと変な吹き替え。
63 オリヴァー 苦労するね。
64 男 余計なお世話。

間。

65 オリヴァー で、いまは何を？
66 男 ああ、うん。いろいろかじってる。これでしょ、まず。

67 オリヴァー そうね。
68 男 週二で花屋の手伝い。
69 オリヴァー いいね。
70 男 演技指導。
71 オリヴァー すごい。
72 男 そんな感じ。
73 オリヴァー へー。

問。

74 オリヴァー 彼氏にふられちゃってね。
75 男 あっそ。
76 オリヴァー 今年三回目。
77 男 ふるのくせになつてんじゃない、そいつ？
78 オリヴァー 今回はマジ。レコード持ってた。
79 男 つき合つてどれくらい？
80 オリヴァー 一年半。
81 男 寿命でしょ。
82 オリヴァー やっぱり？
83 男 僕なんか、せいぜいもつて八ヶ月。
84 オリヴァー そうなの？
85 男 うん。

問。

86 男 去年エクアドルのやつとつき合ってた。結婚しようって言われて。デカマラ、僕の腕ぐらい
87 オリヴァー 最高じゃん。
88 男 あんなの見たことないよ。
89 オリヴァー 僕、ある。
90 男 でもキモいの。
91 オリヴァー キモい？
92 男 僕の体にウンコしたがつて。いきなりだよ。「お前の体にクソしてーよって」。人っていろい
93 オリヴァー 変わってる。
94 男 変態すぎ。

問。

95 男 じゃ、彼氏にふられて悲しいんだ？
96 オリヴァー うん。だね、そう思う。
97 男 そっか。

問。

98 男
やめて。
間。

99 オリヴァー 三日目だよ。
 100 男 三日目？
 101 オリヴァー ふられてから。
 102 男 ああ。
 103 オリヴァー それからどこにも出かけてない。
 104 男 そう。
 105 オリヴァー 引きこもり。いろいろ考えちゃって。
 106 男 吹っ切れるよ。
 107 オリヴァー どうかな。
 108 男 吹っ切れるもんだよ、何事も。
 109 オリヴァー 食べるものなくなつた。テスコ行かなきゃ。
 110 男 飢え死にしちゃうよ。
 111 オリヴァー ほんと。
 112 男 吹っ切れるって。
 113 オリヴァー どうかな？

間。

114 男 で、何で生活してんの？
 115 オリヴァー ジャーナリスト。もの書き。
 116 男 いいじゃん。
 117 オリヴァー そう？
 118 男 堅気でしょ。僕とはちがう。
 119 オリヴァー 自分でそう言うなら。
 120 男 コスプレとはちがう。
 121 オリヴァー フリーランスだよ。書いてんのはデイリー・メールばっか。
 122 男 食つてくためでしょ。
 123 オリヴァー うん。新しい雑誌の仕事始めるとこだけど。

間。

玄関の向こうで鍵の音がする。ドアがひらく。フィリップ登場。オリヴァーと男を見る
 と驚いた様子。オリヴァーは急に立ち上がる。

124 フィリップ ぎけんなよ。
 125 オリヴァー ヤバ。

間。

130 フィリップ グラスゴー行ってるって思った。
 131 オリヴァー キャンセルした。
 132 フィリップ グラスゴー行くって言ったよね。
 133 オリヴァー まだ鍵持ってたんだ。
 134 フィリップ ここにはいないって言うから。
 135 オリヴァー 鍵は置いてったもんだと。
 136 フィリップ 荷物取りにきたんだ。最後のスーツケース。
 137 オリヴァー そう。

138 フィリップ
139 オリヴァー 本の。
うん。

オリヴァーはフィリップが男を見ているのに気づく。フィリップは制服をじっと見ている。

140 オリヴァー こちらは……
141 フィリップ いい。

フィリップは一瞬行き先に迷い、早足で部屋を出てベッドルームに入る。

147 オリヴァー ヤベ。ヤベ、ヤベ、ヤベ、ヤベ、ヤベ。お願い、帰って。

148 男 はあ？

149 オリヴァー もう帰って。お願い。帰って。

150 男 飲み始めたところだよ。

151 オリヴァー お願い帰って。

152 男 お金もらってないよ。

153 オリヴァー うん。

154 男 もらうまで動かないから。

オリヴァーはあわてて財布を取りにいき、二十ポンド紙幣を数枚取り出す。

155 オリヴァー はい。おつりはいい。帰って。

156 男 (金を数え)これ脱がなきゃ。

157 オリヴァー だめ。行かないでだめ。一大事なの。

158 男 ナチスの格好で地下鉄乗れないよ。

159 オリヴァー 勝手にして。いいから急いで。お願い。

男は自分のバッグを取ってバスルームへ向かい、振り返る。

160 男 あいつ、よりは戻さないね。

161 オリヴァー さっさと着替えろって。

男は退場。フィリップがバッグを持って出てくる。

164 フィリップ 行くよ。

165 オリヴァー だめ。

間。

166 オリヴァー お願い。待って。一分だけ。一杯。それだけ。絶対。

169 フィリップ 相手いるじゃん。

172 オリヴァー あれはただの……単なる……

173 フィリップ 弁解はいい。

174 オリヴァー ニックの友達。コスプレ。コスプレパーティー。ニックの家に行くんだって。一杯飲んだの。

175 フィリップ ニックはいまブラジルだ。

176 オリヴァー もちろんだよ。知ってる。
 177 フィリップ ふぎけんなよ。
 178 オリヴァー ニックはいまブラジルだよねー。
 179 フィリップ ふぎけんなよ、オリヴァー。
 180 オリヴァー はい。

間。

181 オリヴァー お願い。お願いもうちょっといて。十五分。それだけ。

間。

182 フィリップ あいつ。
 183 オリヴァー うん。
 184 フィリップ ナチスの制服着てる。
 185 オリヴァー うん。キモいよね？
 186 フィリップ どこまでエスカレートするんだよ。自分にあきれないわけ？
 187 オリヴァー うん。あきれれる。あきれます。

間。

191 オリヴァー クローゼットがすかすかに見えちゃって。
 192 フィリップ はあ？
 193 オリヴァー だから、気づかなかったってこと、服あんなにたくさん持ってたんだって。
 194 フィリップ ああ。
 195 オリヴァー いきなりすかすかに。

間。

196 オリヴァー 元氣そうね。
 197 フィリップ 変わってない。
 198 オリヴァー だね。
 199 フィリップ まだ三日だよ、オリヴァー。三日じゃ人は変わらない。
 200 オリヴァー もっと長かったみたい。ちがって見えるよ。
 201 フィリップ そう。
 202 オリヴァー もう僕のものじゃないみたい。

間。

203 オリヴァー つまりね、フィリップ、君なしで生きていく自信がなくて。

男がバスルームから戻ってくる。自分の服を着て、バッグを持っている。

204 男 まだザーザー降り。
 205 オリヴァー あっそ。

男はテーブルへ行き、飲みかけのスコッチを飲み干す。オリヴァーとフィリップは彼を

見守る。

206 男

きらいじゃないんだ、この仕事。おもしろい人間と出会えるし。すごくいろんな人間と。サラリーマンとか絶対向かないし。何時間コンピュターとにらめっこなんて。地下鉄乗って、ロンドンじゅうを回るのもきらいじゃない、ザーザー降りて歩き回るのも。でもささやかでいいからリスペクトを持って接してもらいたいよね。

玄関へ歩く。

207 男

大した頼みじゃないでしょ？ 普通のことだよ。つまりさ。僕は家具でもぜんまい仕掛けの人形でもない。僕は人間なの。人間らしく接してもらって当然でしょ。ゴミみたいに捨てるのはなしだよ。客のお楽しみのためにコスプレするのはいいけど、僕にも感情はあるんだよ、って言ってるわけ。(フィリップに) 会えてよかった。

出ていく。間。雨音だけ。

208 オリヴァー

人っていろいろ。

209 フィリップ

行かなきゃ。

210 オリヴァー

一杯だけ。

オリヴァーはあわててスコッチのボトルを取りにいく。フィリップの分を一杯注ぐ。フィリップは仕方なくグラスを受け取る。

211 オリヴァー

座って。五分。そしたら行って。

二人は座る。間。

212 オリヴァー

今朝シルヴィアと電話で話してね。慰めてくれた。ありがたい。

213 フィリップ

元気なの？

214 オリヴァー

シルヴィア？ うん、シルヴィアは元気。「土曜日に寄るね、マリオといっしょに。」って。プライド行こうよ。楽しもう。」って。

215 フィリップ

プライド？

216 オリヴァー

土曜日のゲイ・プライド。僕は……「気が向くかわからない」って言った。「フィリップは出

217 フィリップ

戻らないよ、オリヴァー。

218 オリヴァー

だからそう言った。「ねえシルヴィア、たぶんフィリップは戻ってこないよ」って。「でもさ、

219 フィリップ

引きこもっててもしょうがないよ」って、シルヴィアが。「いじけてんじゃないよ。連れ出してあげる。そとへ。元気づけてあげる」って。

220 オリヴァー

何て答えたの？

221 オリヴァー

オカマだらけの公園に行っても、大して元気にはなれないよって。

222 フィリップ

間。

223 オリヴァー

あいつのことは好きじゃないよ、フィリップ。こないだのアメリカ人。愛してない。

224 フィリップ

その話はしたくない。

225 オリヴァー

あれは愛じゃない。君のことは愛してる。

226 フィリップ

もう行く。

228 オリヴァー 君の場合はちがう。君の場合は愛なんだ。

間。

229 フィリップ 俺にうそをついた。

230 オリヴァー さっきのは何でもない。べつのもの。わかるでしょ。

231 フィリップ じゃあなんでやるんだよ？

232 オリヴァー 必要だから。

233 フィリップ 俺にうそをついた。

234 オリヴァー わかってる。

235 フィリップ 何度も何度も。

236 オリヴァー うん。

237 フィリップ うそばっかついて。うそで固めた一年半。

238 オリヴァー 出会ったときのこと覚えてる？

239 フィリップ もう君って人間がわかんない。

240 オリヴァー あのパーティーで。

241 フィリップ 君って人間が全然わかんない。

242 オリヴァー シルヴィアのパーティーで。

243 フィリップ 決まってるんだろ、覚えてるよ。

244 オリヴァー シルヴィアは僕たち気が合うってわかってた。お互い好きになるって。「写真家さんがいてね。」って言われて。「いつも旅してるの。きっと気に入るよ」って。

245 フィリップ もう行かないと。

246 オリヴァー 君はイスラエルから戻ったとこで。

247 フィリップ ヨルダン川西岸。

248 オリヴァー そう……

249 フィリップ で？

250 オリヴァー で僕たちしゃべった。その旅行のこと。撮ってきた写真のこと。

251 フィリップ なんでいまその話になるんだよ？

252 オリヴァー どうなったのかわかって、あの女性。

253 フィリップ どの女性？

254 オリヴァー そのとき話してた人。写真に撮った人。パレスチナの女性。

255 フィリップ オリヴァー。

256 オリヴァー 一時間は語ってくれた。あんなに黒い瞳は見たことない、あんなに何かを求めている瞳はって。

257 フィリップ 一体何なんだよ。

258 オリヴァー その人の息子が死んだんだって。

259 フィリップ 何だってその話になるんだよ？

260 オリヴァー 僕訊いたでしょ、その瞳は何を求めてたのかわかって？

261 フィリップ で？

262 オリヴァー そしたら君は、尊厳だよって、つまり聞いてもらうこと。返事は求めてない。ただ聞いてもらうこと。聞いてもらうことで生まれる尊厳。声をもつ権利。

263 フィリップ なんなんだよ。

264 オリヴァー あのとときだよ、君のなかの何かに気づいたのは。

間。

265 フィリップ 帰る。

266 オリヴァー 君とのつながりを感じた。あそこで。パーティーで。そのあところでも、二人で帰ってきた

とき。それにいまも、いまも感じる。いまも感じるんだよ、フィリップ。

間。

—
そういうの、めったにないと思う。

間。

271 フィリップ 出会ってたったひと月半、もうほかのやつとヤッてた。

272 オリヴァー わかっている。

273 フィリップ 俺はブリュッセルにいた。その前の晩はいっしょにいた。あのベッドで。君は言っただ、こんなにも誰かを愛したことはないって。それから駅まで車で送ってくれた。

274 オリヴァー わかっている。

275 フィリップ その八時間後？とか、十時間後には、べつの男のチンコしゃぶってた。

276 オリヴァー わかっている。

277 フィリップ それって何なんだよ、オリヴァー？何なんだよ？

278 オリヴァー わかんない。

279 フィリップ ごていねいに話してくれてさ。「僕こんなことしちゃった。なんでかわかんないけど、こんなことしちゃった」って。

280 オリヴァー 話した。

281 フィリップ 「男のチンコしゃぶっちゃったよ。公園で。」って。

282 オリヴァー 話した。

283 フィリップ 「相手はほとんど見えなかった」って。だから何だよ？「顔はほとんど見えなかった。」

284 オリヴァー 真っ暗だったから。

285 フィリップ 「顔はほとんど見えなかった。」そう言えば気休めになるとでも思った？

間。

286 フィリップ でも俺はね、それで落ち込むんだよ。そう。そういうこと。だからもうつき合えない。落ち込むんだよ。

287 オリヴァー 落ち込む？

288 フィリップ 考えてはみたよ。俺がおかしいのかもしれないと思った。俺がお堅すぎるんだろ。潔癖で。わかんない。出家でもしたほうがいいんだよな。相手の顔は見えなかったんだ、何度も考えた。しゃぶったかもしれない、だけど……

289 オリヴァー フィリップ——
しゃぶったかもしれない、だけど、顔は見えなかったんだから。たぶん問題は俺にあるんだよな。オリヴァーはデートしてるんじゃない、いちゃついてるわけでも、相手とバカンスに行こうとしてるわけでもない、公園でしゃぶり合ってるだけ。だけど俺はヤなんだよ。

290 フィリップ 君の問題じゃないよ。
あの晩ブリュッセルから戻ったとき、話聞かされたあと、ベッドに寝転んで天井見てた。あんな孤独を感じたのは生まれてはじめてだったよ。

291 オリヴァー ごめん。
292 オリヴァー

間。

293 オリヴァー シルヴィア、あの仕事取ったって。
294 フィリップ 何の仕事？

298 オリヴァー 応募した仕事。シェイクスピアの。チャンスだって言ってた。主役。ヴァイオラ。『十二夜』
 の。ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーで。
 299 フィリップ さすがだね。
 300 オリヴァー それからマリオ。イタリア人の彼氏。いい感じみたい。ラブラブなんだ。ちゃんとした男
 301 フィリップ だって。しかもすごく、ものすごくストレート。よかった。

間。

302 オリヴァー 自分でもこういうことかわからなくて、フィリップ。何か、僕の名前が。何となく誰かが僕
 を名前と呼んでる気がする。
 303 フィリップ いったい何言ってるの？
 304 オリヴァー その名前に反応しちゃうんだ。こないだの夜みたいに。僕、角のゲイバーの前を歩いてて。
 305 フィリップ ああそう。
 306 オリヴァー あの店の前を歩いてて考えてた、帰んなきゃ、仕事しなきゃ。デイリー・メールの記事書かな
 きゃ、なんだろう。世界の終わりは近いとか、それ系のこととか。そしたら声がして、僕の名
 前を呼んでるみたいで。

名前？

307 フィリップ その声は、僕の名前を知ってるみたいで。だから僕はなかに入った。だってその声が僕の名
 308 オリヴァー 前を呼んでるから。二杯飲んだ。そしたら一人、男がいて……ハンサムでも何でもなし。実
 際、思い出してみると、激しくブスなほうだった。ビールくさいし。二メートル離れてもに
 おってくる。口臭がぶわーっと。しかも変な目つきでこっちを見てる、僕の名前を知ってる
 みたい。ちょっと酔っててなめるような目つき……ほんとなめるような、うわー、マジキ
 モいって思ったつぎの瞬間、僕となり立って話を聞いている、結婚してるとか、奥さんは一
 週間実家に帰ってるとか、でなんかそいつ、僕に話しながら自分の股間揉んで……
 309 フィリップ 最後まで聞きたいとは思わない。
 310 オリヴァー 気づいたら二人でトイレの個室にいた。僕はしゃがんでた。

間。

311 フィリップ ごちそうさま。
 312 オリヴァー 中毒だ、って言おうとしてる。
 313 フィリップ 中毒。

間。

314 オリヴァー まだ一度も話してないことがあって。
 315 フィリップ やっぱり真実は出し惜しみしてほしい。
 316 オリヴァー もっと若いころに起きたこと。昔、たしか十七歳かそれぐらい、おばさんの家に泊まった
 とき。お母さんのお姉さん。君も会ったでしょ。
 317 フィリップ ああ。
 318 オリヴァー 女の人がやってきて。おばさんの友達の。僕は出かけるとこだった。おばさんからその人紹
 介されて、はじめましてとか言って、走って出かけた。でもすぐ忘れものに気がついて。
 セーターかなんか。走って家のなかに戻ったところで気がついた、二人が——おばさんとそ
 の友達が——僕の話をしてたんだ。僕が戻った音には気づいてない。僕、耳を澄ましてみた。
 全部は聞こえないんだけど——けど、おばさんの声が聞こえてきて、「あの子、いい子だけど
 ちよっとずれててね。」実際には、こんなよ、な、ことじゃない。一字一句いまのとおり。「あの

子、いい子だけちょっとずれててね。」しかも変なのは——いちばん変なのは——言う前から何となくわかったのね、おぼさんの言おうとしてること、前にもおぼさんがその言葉を口にしたみたいな、おぼさんがそれを言ったのとそれを言うってわかったのが結びついてるってゆーか。同時に起きた。「あの子、いい子だけちょっとずれててね。」

間。

君のこと、これからも大切に思ってる。

ありがとう。

でもその部分は……君がその、中毒って言ってる部分は。俺には無理。
うん。

間。

じゃあ。

うん。だね。じゃあ。

間。フィリップは立ち上がる。バッグを持つ。

ごめん。本当に。

行かないで。

行かないと。

フィリップは玄関へ向かう。立ち止まり、オリヴァーのほうを向く。

いまだにわかんない、どうしてここまで引き延ばしてきたのか。ここに来る途中もずっと考えてた。知らなかったわけでもないのに。なのにずっと……ずっと俺は頑張った。何かを信じてた。君を。わかんない。信じてた。君をわかってるつもりになってた、ってことだと思う。

フィリップ出ていく。オリヴァーは一人、部屋に残される。うなだれる。しばらくして、立ち上がって部屋を出て行くとする。

ベッドルームへ通じるドアからシルヴィアが現われる。ガウンを着ている。部屋は前の場の状態に戻る。オリヴァーはゆっくり静かに去り、シルヴィアの出た部屋に入る。

第3場

一九五八年

シルヴィアがやってきて、ソファに座る。数秒後にフィリップが登場する。彼もまた。パジャマとガウンを着ている。

1 フィリップ
ここにいたんだ。

2 シルヴィア
あなた。

3 フィリップ
目を覚ますと。となりにいないから。

4 シルヴィア
夢を見たの。

5 フィリップ
また気色の悪い夢？

6 シルヴィア
そう。

7 フィリップ
セルビア料理が並んでる。

8 シルヴィア
たぶんね。

フィリップは彼女のとなりに腰かける。二人は数秒、黙ったまま座っている。

15 シルヴィア
あなた無口だったわね。

16 フィリップ
僕が？

17 シルヴィア
はじめはちがった。食事が始まったときは。

18 フィリップ
僕はべつに――

19 シルヴィア
それまでおしゃべりだったもの。上機嫌で。でも食事中に無口になった。

26 フィリップ
聞いてただけだよ。出る幕じゃないような気がしてね、でも僕のせいで白けたのなら謝るよ。

間。

30 シルヴィア
じゃあ気に入ったのね、彼のこと？

31 フィリップ
誰のこと？

32 シルヴィア
オリヴァーよ、もちろん。

33 フィリップ
いいやつみたいだ。

34 シルヴィア
実際そうでしょう？

35 フィリップ
お互い共通点が多いかどうかは疑問だけど、ごくまともな男だよ。

36 シルヴィア
なぜそんなことを言うの？

37 フィリップ
ごくまともな男ってこと？

38 シルヴィア
違う、なぜあまり共通点がないなんて言うの？

39 フィリップ
ないから。相手は作家だし。とても知的で外向的、そうだろう？

42 シルヴィア
じゃ何、あなたは……

43 フィリップ
まあ、似ても似つかない。芸術的センスのかけらもない。

44 シルヴィア
そうかしら。

45 フィリップ
とにかく、僕が彼をどう思おうといいだろう？ 要は君たちが意気投合すればいい、大切なのはそれだけだ。

46 シルヴィア
わたし、二人に仲よくなってほしくて。

47 フィリップ
それに仕事も、もちろん。大事だよ。

48 シルヴィア
ええ。

49 フィリップ
君たちは、仕事について言えば、ちゃんとお互いを理解し合ってるらしい、それが肝心だ。

50 シルヴィア
そうね。

51 フィリップ
だから僕が彼をどう思おうと関係ない。

52 シルヴィア
53 フィリップ
いえ、わたしそこまで。
仕事が第一だ。

間。

66 フィリップ
67 シルヴィア
68 フィリップ
物腰がね、それだけだよ。
「物腰」？
それだけ。
69 シルヴィア
70 フィリップ
71 シルヴィア
72 フィリップ
73 シルヴィア
74 フィリップ
どんな「物腰」？
「物腰」？
はつきりとは言えない。
どんな「物腰」？
わからない。ただ物腰が。
どういう意味？
とにかく僕たちにはあまり共通点がない。

間。

75 フィリップ
君はどうかかわらないけど、すごく、すごく疲れたよ。

間。

76 シルヴィア
77 フィリップ
78 シルヴィア
わたしね、あなたのことを考えるの、ときどき。
それは心強い。
ちがうの、あなたが仕事をするときに考えるの。昼間、ここにいて。お茶を飲んだりラジ
オを聴いたりしながら、仕事をするあなたのことを考えるの。あなたは茶色のスーツで、
大きなアパートの部屋のすみにいる、お客さんは部屋を見て回ってる。そしてあなたは大き
なドアに全部鍵をかけて、とぼとぼと会社に戻る。
なんて妙なことを。

79 フィリップ
80 シルヴィア
81 フィリップ
82 シルヴィア
でわたし思うの、孤独なんだわって。フィリップはきっと孤独なんだわって。
そんなおかしいこと。
今晚言ってたでしょう、仕事に幸せを感じない、オリヴァーとわたしがいやらしいって。
あれは悲しかった。

83 フィリップ
84 シルヴィア
85 フィリップ
86 シルヴィア
ああ、あれ。
だから考えたの、あなたのことを、何があなたを幸せにするのかを。
僕のことには心配いらないよ。

87 フィリップ
88 シルヴィア
89 フィリップ
90 シルヴィア
91 フィリップ
92 シルヴィア
93 フィリップ
94 シルヴィア
95 フィリップ
96 シルヴィア
僕のことを心配いらないとしたら。あなたが心から幸せにする
ものをその手でつかめないとしたら。
僕のことには心配いらない。
それより悲しいことってある？
大げさだって。
そんな人生を生きるなんて？
君がいれば幸せだよ。
それにもし、マースデン先生が正しいとしても――
なあ。

もし理由はなくても――
だからもうつくらないことに――
もしつくれるとしても、つくるとしても――

97 フィリップ
シルヴィア。
わたし思うの、それで――
98 シルヴィア
だからもうつくらないって。
99 フィリップ
それで何か変わるんだろうかって。

間。

101 シルヴィア
子供を持てば変わるのか。そのことが。

再び間。フィリップは立ち上がる。

102 フィリップ
ワインの飲みすぎだよ。
103 シルヴィア
一度も話したことないでしょう、このこと。
104 フィリップ
もうベッドに戻るよ。
109 シルヴィア
いて。

間。

110 シルヴィア
お願い、いて。

間。

111 シルヴィア
わたしかえって不安になったの、マースデン先生に子供ができない理由は見当たらないって
言われたとき。先生は頑張りさえすればって感じだった……
112 フィリップ
もう頼むよ、シルヴィア……
113 シルヴィア
でもあのとき考え始めたの、わたしどうしてそこまでほしいのか。子供が。どうしてそこま
で大事なのか。そこまで必死なのか。ときどき、全身で祈ったわ。ベッドであなたのととなり
に寝ながら全身で祈った、感じないか……ちよっぴりでいい。芽生えてこないか。体のなか
に新しい命が。
114 フィリップ
もう頼むから……
115 シルヴィア
だってそれは自然なこと、女だもの。母親になるのは。だから、祈って祈って祈った。
116 フィリップ
何を言ってるんだ？
117 シルヴィア
でもそのうち気づいたの、それだけじゃないって。わたしが子供をほしかったのは二人でい
るのがこわかったからなの。

間。

118 シルヴィア
あなたに黙ってたことがあるの。
119 フィリップ
もう理解できない。
120 シルヴィア
覚えてる、わたしが共演したあの俳優？
121 フィリップ
いまはいい。そういう話し方をするなら。
122 シルヴィア
リチャードって名前よ。リチャード・コーヴェリー。
123 フィリップ
たまに君のことが理解できない。
124 シルヴィア
『桜の園』で共演した。観にきてくれたでしょう。
125 フィリップ
そいつが何？
126 シルヴィア
背が高くて色白の。エピソードの役。
127 フィリップ
その芝居は覚えてる。

いったん口をつぐむ。

132 フィリップ
何年も前だろう。そいつと会って一杯飲んだ。ほかにも役者が大勢いた。ほとんど思い出せない。どうしていきなり大事なことになるんだよ、僕がそいつをどう思うかなんて？

135 シルヴィア 「あいつ不愉快だ」 って。
136 フィリップ 何だってそんな話を？

138
フィリップ
こんな会話を
する意味がわ
からない。と
にかくとても
疲れた。

139 シルヴィア 三日前にタイムズの記事で読んだの、彼自殺したって。そのときはあなたに言わなかった。理由はわからない。でも言わなかった。

141 シルヴィア 覚えていたからかもしれないわ、あなたが好きじゃなかったこと。彼のせいでなぜか気分を害したこと。

143 シルヴィア 首を吊ったの。 スキャンダルがあつて。 裁判沙汰よ。 猥褻行為とか、その手のこと。

144 フィリップ なるほど。

145 シルヴィア たぶん同性愛者だったの。リチャード・コーヴェリーはたぶん同性愛者だったの。

問。

147 フィリップ　　そいつのことはほとんど思い出せない。君の印象にはずっと残ってるようだけど、僕にはほとんど思い出せない。自ら命を絶ったのは気の毒だし、君がその件で動揺してるのも気の毒

148 シルヴィア
どこがそんなに気に食わなかったの？

149 フィリップ
 気に食わなかったかどうかとも覚えてない。君が大げさなんだ。多少不愉快だっただけだ。あ
 いいう男って不愉快なところがあるだろう。女みたいで。思い出したよ、あいつはあからさ
 まに僕を見た。

151 フィリップ
こんな話馬鹿げてる。わざと怒らせようとしてるのか。

152 シルヴィア
なぜリチャード・コーヴェリーを毛嫌いするのかわからなかった。だからあなたには言わなかった。

153
フィリップ
素晴らしい。君は僕を責めるんだ、ひねくれてる、死んだのは僕の責任ってわけか、たった一度、二十分ほどしか会っていない男なのに。

154 シルヴィア 責めてなんかいない、フィリップ。訊いてるだけ。
155 フィリップ とにかく、本当に心配だよ。どうやらまたぶり返してる。

156 シルヴィア ごめんなさい、そう感じたなら。
157 フィリップ あのころと同じ話し方だ、どきつとするぐらい、デヴォンに行く前と。
158 シルヴィア 病気。そう呼ぶことに決めただしょう？わたしの病気。

間。

159 フィリップ 話はすんだ？

164 シルヴィア オリヴァーはリチャード・コーヴェリーと同じ意味で不愉快だったの？

165 フィリップ

オリヴァー・ヘンショを同性愛者と思うかってことなら、本当にわからない。考えてみたこともない。彼の私生活なんて僕には関係ないことだし君にも関係ないだろう。僕はこう考えることにする、君の様子が今晩すこしおかしいのは、コーヴェリーって男が死んで、動揺しているからだ。それと、ワインを少し飲みすぎたのかもしれない、それで多少は納得できる、すさまじい不条理としか言えないこの状況にも。今度こそ失礼して、本当にベッドに戻らないと。

166 シルヴィア

おやすみなさい、フィリップ。

167 フィリップ

いっしょにベッドへおいで。疲れてるだろう。

168 シルヴィア

もうすこししたら。

フィリップが退場し、シルヴィアが一人残される。うなだれる。しばらくして、立ち上がって部屋を出て行くとする。

オリヴァーが現われる。ガウンを着ている。部屋は前の場の状態に戻る。シルヴィアはゆっくり静かに去り、オリヴァーが出てきた部屋に入る。

第4場

二〇〇八年

オリヴァーが長椅子に横たわっている。まだガウン姿である。脇にはほとんど空になったスコッチのボトルとグラス。照明は薄暗い。
ドアをノックする音。オリヴァーは微動だにしない。ノックの音が大きく、しつこくなる。ようやくオリヴァーはドアへ這っていき、開ける。シルヴィアが登場する。食料品を一袋持っている。

1 シルヴィア
ざけんなよ。
2 オリヴァー
こちらこそ会えてうれしい。
3 シルヴィア
手首切ってたらどうしようと思った。
4 オリヴァー
ことあるごとに言ってきたでしょ、自分を抹殺する道を選ぶとしたら有毒ガスだって。

シルヴィア、コートを脱ぐ。オリヴァーの脇をかすめて通り、キッチンへ消える。つぎのいくつかの台詞は舞台のそとで言う。

5 シルヴィア
持ち時間十五分。
6 オリヴァー
ほんと時間に寛容。親友でよかったー。
7 シルヴィア
マリオが空港に着いたとこなの。これからデート。それからお泊まり。
8 オリヴァー
素敵。
9 シルヴィア
食料買ってきたよ。アボカドのムース。オーガニックのフェタチーズ。マダガスカル・バニラのヨーグルト。基本のキ。
10 オリヴァー
ありがと、ママ。
11 シルヴィア
ビールもらう。
12 オリヴァー
ご自由に。

彼女がビールを手にはキッチンのドアから現われる。

13 シルヴィア
あんたウンコみたい。
14 オリヴァー
笑える、屋根裏の肖像画が僕の身代わりになってくれると思ってたのに。
15 シルヴィア
何があったの？

間。

16 オリヴァー
フィリップ、僕のせいで落ち込むんだって。
17 シルヴィア
あんたのせいで落ち込む。
18 オリヴァー
ゆきずりのセックスとか。そのせいで。
19 シルヴィア
なるほど。
20 オリヴァー
だから僕、それはべつものだよって言った。つまり、いっしょにいるときは……フィリップと二人のときはちがう。けどほかのは、公園とかサウナとかネットとか、何でもいい、そう言う……

21 シルヴィア
発展場とか。
22 オリヴァー
発展場とか、ご名答、そういうのはべつもの。それは……何てゆーか、それはトイレに行くみたいなんだから。他人連れでトイレ。
23 シルヴィア
他人連れでトイレ。
24 オリヴァー
そのとおり。

シルヴィアは一瞬黙る。彼女の携帯電話が振動する。

25 シルヴィア
ごめん、ブルブル言ってる。
26 オリヴァー
うらやましい。

彼女は携帯を取り出し、発信元を確認する。

27 オリヴァー
バジル臭の男？
28 シルヴィア
レイシスト。

彼女は電話に出る。

29 シルヴィア
（電話で）ハ―イ。おかえり。どうだった？……
30 オリヴァー
僕からよろしくって。
31 シルヴィア
そう……うん、大丈夫。さみしかった。いまオリヴァーんち。
32 オリヴァー
よろしくって。
33 シルヴィア
オリーがよろしくって。マリオからも。うん。オッケ。すぐすむ。
34 オリヴァー
僕の持ち時間食ってるんだけど。

シルヴィアは、オリヴァーに黙れと言わんばかりに顔をしかめる。

35 シルヴィア
車ないの、地下鉄で行く。（腕時計を見て）九時には着く。遅くても九時半。
36 オリヴァー
僕の持ち時間食うなって、十五分しかないんだよ。

（オリヴァーに、電話を手でふさぎ）シーツ。
（再び電話で）あ、いいね。おいしそー。じゃあとで――駅着いたら電話する。チャーオ。おかえり。ティアーモ。

電話を切る。

38 オリヴァー
ティアーモ？
39 シルヴィア
うっせー。

間。

41 シルヴィア
オッケ、じゃいまからフィリップの心のなかをのぞいてみる。何があるか当ててあげる……
42 オリヴァー
何が彼を落ち込ませるか。
43 シルヴィア
どうぞ。

オッケ、行くね。

44 オリヴァー
拝聴します。
45 シルヴィア
あなたはいま、公園を歩いています。夜中です。あなたはそこである男を目に留めます。
46 オリヴァー
なるほど。

47 シルヴィア
彼はイケメンです。超イケメンです。すると彼は自分のブツを引っ張り出します。
48 オリヴァー
いいね。

しかもデカイ。巨大です。彼は巨大なブツをブルンと振って、いや、その巨大なブツであな
たの顔をビンタします。あなたはたまたらなくなつて――

50 オリヴァー
僕はたまたらなくなつてその場にしゃがんで満足させてやりたくになります。
51 シルヴィア
あなたはたまたらなくなつて、いま端的におっしゃった通り、その場にしゃがんで満足させて

やりたくなります、でもストップ。ニュース速報。あなたは気づきます。彼について。二、三の事実。この男はレイシストだ。あるいは十四歳の少女少女にヤクを売っている。それでもあなたはしゃべりますか？それでも彼を満足させてやりますか？

オリヴァーはいったん口をつぐんで考える。

巨大って、どれくらい巨大？

真面目に考えて。あなたはしゃべりますか？

たぶん。

短い間。

わたしはフィリップの味方だね、この件では。

べつに会話とかしない。そいつの世界観認めたりしない。おっしゃるとおりホロコーストなんてなかったよね、とか言わない。しゃぶってやるだけ。

全面的にフィリップの味方です。

とにかく、あなたがいま選んだシナリオは最悪。だいたいなんでファシスト・マニア選ぶかな？ピアニストで、お金を全部セーブ・ザ・チルドレンに寄付してる人かもしれないじゃん？

かもしれないよ。けど大事なのは——しかもフィリップが落ち込むのはそのせいだと思うんだけど——大事なのはあなたが知らないってこと。誰だか知らない男のブツをしゃぶってる。どうでもいいじゃん。

間。

これ、正直に答えなきゃだめなやつ？
できれば。

正直な真実を？

それだけを。

不都合なことでも？

何のための友達よ？

だったら正直な真実は、やるだけじゃない、つまりしゃぶるだけじゃない、かなり好きかも。いまの具体例。あんたのチョイス。かなりそえられる。

やっぱりね。

だってね——ああ、もう、教えるつもりはなかったけど、フィリップが来たとき、ここに男がいて、そいつが、ああもう、どう言えればいいんだ……

言ってみて。

その、ナチスでした。

ナチス？ナチスと呼んだの？

本物のナチスじゃない。

何それ、本物のナチスじゃないって？

ただのごっこ。

ナチスごっこ？

だから、ほら、ネットで会ったの。そいつらいろんなコスチューム持っていて、こっちが選んで、来てもらって……だから、プレイだよ。

プレイ。

だから、何でもあり。消防士。パイロット。配管工。

59 シルヴィア
60 オリヴァー

57 シルヴィア
58 オリヴァー

55 シルヴィア
56 オリヴァー

52 オリヴァー
53 シルヴィア
54 オリヴァー

68 シルヴィア
69 オリヴァー

66 シルヴィア
67 オリヴァー

63 オリヴァー
64 シルヴィア

61 オリヴァー
62 シルヴィア

70 シルヴィア
71 オリヴァー

72 シルヴィア
73 オリヴァー

74 シルヴィア
75 オリヴァー

76 シルヴィア
77 オリヴァー

78 シルヴィア
79 オリヴァー

80 シルヴィア でもあんたはナチスを選んだ。
 81 オリヴァー やるじゃんプレイ。ほら、変態系の。本気じゃない。ファンタジーの世界。
 82 シルヴィア オッケ、で。あんたの役は？そいつはナチスで、あんたは何？バイキング？
 83 オリヴァー いや、僕は僕。
 84 シルヴィア あんたはあんた？
 85 オリヴァー そう、そいつはナチス、でも僕は僕。
 86 シルヴィア であんたがプレイしてる最中に、そこにフィリップが入ってきた。
 87 オリヴァー みたいな。
 88 シルヴィア 「みたいな」？
 89 オリヴァー いや、もうやめてたから。僕からやめた。お酒飲んでただけ。
 90 シルヴィア ナチスとお酒？
 91 オリヴァー そう。そしたらフィリップが。
 92 シルヴィア そりゃまずいよ。
 93 オリヴァー ありがと。知ってる。

間。

94 オリヴァー 昔ゲイ雑誌の文通欄を見たのね。ずっと昔。フィリップより前。そしたら一人目に留まってさ。——「ゲイ、三十三歳、ノンスモーカー、趣味はボンデージ、疑似レイプ、レザー、ラバー、チェーン、リミング、フェルチング。恋人募集中。」

それが僕の人生。

95 シルヴィア でも素敵な相手を見つけたんだよ。

96 オリヴァー どうして選ばなきゃなんないわけ？

97 シルヴィア いいんじゃない。理解してやるならいいんじゃない。

再びシルヴィアの電話の振動が聞こえる。

98 シルヴィア ごめん。また鳴ってる。

テキストメッセージである。彼女は読んでにこりとする。

99 オリヴァー またイタリア人？

100 シルヴィア かもね。ヤベ、行かなきゃ。

オリヴァーは答えない。シルヴィアは立ち上がり、コートを着る。

101 オリヴァー さっきセバスタンから電話があった。例の雑誌にゴーサインが出た——資金ができたって。ゲイ文学にとってこの雑誌は、ギロチンにとってのマリー・アントワネットみたいな存在になるって。広告塔になる。

102 シルヴィア 「文学」？

103 オリヴァー 超ビッグネームがついたみたい。ブリティッシュ・エアウェイズ、BMW、グッチ、ギャップ。そういうの。でかいとこばっか。みんなあやかうとしてる。

104 シルヴィア まあ、ゲイってイケてるし。可処分所得も多いもんね。

105 オリヴァー 僕のアイデアも取り上げてくれる。トム・フォードのインタビュー。ゲイの長者番付。名前は決まってるの？

107 オリヴァー 名前？

108 シルヴィア 雑誌の。

109 オリヴァー 「B L I S S F U L」。究極の幸せ。
 110 シルヴィア あ、そ。
 111 オリヴァー ほかにもある。セバスチャンが推薦してくれた単発の仕事。若い子向け雑誌の編集長が明日
 112 シルヴィア 朝電話する。
 113 オリヴァー とにかく、順調だよ。拾う神あり。男なんかきれいさっぱり忘れて。忙しくしなきゃ。さも
 114 シルヴィア ない……
 114 シルヴィア さもないと？

間。

117 オリヴァー こんなにひどい状態ってなかった。一度も。マジで。
 118 シルヴィア まあ、いやしてくれるよ。「B L I S S F U L」が。それからもちろん、例の本。
 119 オリヴァー 本？
 120 シルヴィア 本だよバカ、覚えてるでしょ？
 121 オリヴァー ああ、あれ。
 122 シルヴィア たしか小説書いてませんでしたっけ。
 123 オリヴァー それをもち出すとこがあんたらしい。
 124 シルヴィア 愛。人生。何らかの意味。せめて意味を見出そうとすること。

ドアへ向かう。開ける。

125 シルヴィア また話そ。
 126 オリヴァー もうわかんない、自分が何を求めているか。とにかくまずい。
 127 シルヴィア 何が？
 128 オリヴァー こわくて。

間。そして――

129 オリヴァー つまり、こんなふうに座って冗談言い合って、でも何が大事かわかんなくなった。それを見
 130 シルヴィア つけなきゃ。さもないと……
 130 シルヴィア さもないと何？

間。

132 オリヴァー どうしても頼みたいことがある。簡単に頼めることじゃない。でも必要だから。これっきり
 132 オリヴァー にする。二度とない。わかるよね。でも必要だから。

間。

133 シルヴィア ぎげんなよ。
 134 オリヴァー 泊まってって。今晚だけ。お願い、シルヴィア。
 135 シルヴィア 無理。
 136 オリヴァー 今回だけ。お願い。お願い。
 137 シルヴィア だめだよ、オリヴァー。
 138 オリヴァー 普段なら頼まない。わかるでしょ。でもいまはどうしても――
 139 シルヴィア やめて、こんなこと。

140 オリヴァー
いまはどうしても自分がこわくて。
141 シルヴィア
自分がこわい？
142 オリヴァー
今晚一人になっちゃうのが。今晚一人でいるのが。

間。

143 オリヴァー
自分の中のどこかで感じるの……なんか、裏切りを。
144 シルヴィア
裏切り？
145 オリヴァー
そう。
146 シルヴィア
裏切ったの、裏切られたの？
147 オリヴァー
両方。わかんない。両方。
148 シルヴィア
オッケ。深呼吸して。もっぺんはじめから。頑張って理屈を通すの。わかりやすくだよ、そうすれば、もしかしたら、もしかしたら助けてあげられる。
149 オリヴァー
頑張ってるじゃん。
150 シルヴィア
もっと。
151 オリヴァー
何度も同じ場所に戻っちゃう。それを何とかしないと。
152 シルヴィア
同じ場所？
155 フィリップ
オリヴァー。
156 オリヴァー
あの声。
157 シルヴィア
どの声？
158 オリヴァー
あの声が――
159 フィリップ
オリヴァー――
160 オリヴァー
お前はだめだって――
161 フィリップ
オリヴァー――
162 オリヴァー
お前は愛されない――
163 フィリップ
オリヴァー――
164 オリヴァー
お前はその程度の人間だって。

間。

165 シルヴィア
マリオに電話する。
166 オリヴァー
ほんとにごめん。
167 シルヴィア
いいよ。
172 オリヴァー
明日は一日彼といっしょにいてあげて。朝も、昼も、夜も。
173 シルヴィア
ありがと。お許しただいて。さすが寛容。
174 オリヴァー
いやみはやめて。

間。

175 シルヴィア
「ビール」もう一本もらうよ。
176 オリヴァー
僕が取ってくる。ゆっくりして。僕の家は君の家。
ミニア・カーサ、トゥッア・カーサ

キッチンへ入る。シルヴィアはコートを脱ぎ、座る。

177 シルヴィア
わたしこんなこといつまでもできないんだよ。オリー。ここにいてあげるなんて。こんなふうに。よくないもん。お互いにとって。それだけは言っとく。
178 オリヴァー
ご恩は忘れません。

間。オリヴァーが引き出しを開け、ボトルの栓を抜く音。

179
シルヴィア

皮肉なのは、マリオが早くあんたに会いたがってること。わたしがいつでも話題にするから土曜日のプライドに來たいって。マリオはローマのパレードしか行ったことないんだよ。司祭が卵投げてたって言い張んの、でもそれってマリオ流の反カトリックなプロパガンダ。赤ちゃんほしがってるって言ったっけ？ わたし言ったの、「イタリアのお母さんに会うまではだめ」って。フィロメーナって名前なの。信じられる？ フィロメーナ。でっかい活火山の名前みたい。手づくりのニョッキは死ぬほどうまいだろうけどね。

間。

180
シルヴィア

だからつまり、あんたが自分で解決するしかない、って言ってんの。

ノックの音。シルヴィア立ち上がるが、玄関ドアではないところから部屋を出ていく。ノックはしつこく続く。やがてフィリップが現れドアを開けると、オリヴァーが一九五八年の服装で立っている。レインコートを着ており、びしょ濡れである。

第5場

一九五八年

1 フィリップ やあ。
2 オリヴァー ごめん。

間。

6 フィリップ 僕たち会わないことにしようって。
7 オリヴァー わかっている。
8 フィリップ 話さないようにしようって。
9 オリヴァー うん。
10 フィリップ こんなことよくないって。
11 オリヴァー わかっている。

間。

16 フィリップ とにかく、入ったほうがいい。

オリヴァーは入る。落ち着きがない。

18 フィリップ シルヴィアはウィンブルドンだ、友達のうちに泊まっている。明日戻る。
19 オリヴァー 知ってる。電話で話した。だから来た。
20 フィリップ こんなことよくない。
23 オリヴァー 最後にもう一度。そしたらもう迷惑かけない。

間。

24 フィリップ とにかく、座ったほうがいい。
25 オリヴァー ありがとう。

互いに向き合って座る。長い間があり、そしてオリヴァーが話し始める。

30 オリヴァー 公園を歩いてきた。土砂降りだった。うっかりしてた。図書館にいたんだ。何か書こうと。
31 フィリップ でもだめだった。書けなかった。だから出た。ここに来た。でも傘を忘れた。
32 オリヴァー そう。
33 フィリップ 無理だった……二人で決めたのはわかっている……でも無理だった……
無理って何が？

間。

38 オリヴァー おかしいよ。わかっているつもりになったた。
39 フィリップ 何を？
40 オリヴァー 孤独ってどういうことか。一人でいるって。わかっているつもりになったた。
41 フィリップ どういう意味？
42 オリヴァー でもいまは。いまはわかっている。

長い間。

43 フィリップ 何を言おうとしてるんだ？

44 オリヴァー 君を愛してるってこと。

45 フィリップ 頼む、二度と言わないでくれ。馬鹿馬鹿しい。

46 オリヴァー どうしようもない。どうにかできることじゃない。

47 フィリップ 二人で決めたんだ。……僕はお願いした、そんな話はしないでくれって。

48 オリヴァー 心から愛してる。

49 フィリップ やめてくれ、そんな言葉。

50 オリヴァー 夜も眠れない。君の顔が浮かんで。君の声が聞こえて。

51 フィリップ やめろ。

52 オリヴァー 二人でいたとき、この前、二人でいたとき、感じなかった？ まるで……まるで……感じなかった？——まるで突然、すべてが、あるとき君のすべてが、それにいまだって……

53 フィリップ やめろ。

54 オリヴァー 君が恋しい。

55 フィリップ 出ていってくれ。

56 オリヴァー いや。すこしだけ。頼むからすこしだけいさせて。

間。

57 オリヴァー この四ヶ月で……僕は理解した。

58 フィリップ 理解したって何を？

59 オリヴァー 昔はただの性欲だと思ってた。体の欲求。倒錯だって。

60 フィリップ 倒錯だ。

61 オリヴァー ぴったりの女の子に出会ったら、結婚したら、子供ができたなら、体の欲求は、性的な欲求は止まるだろうって。

62 フィリップ 倒錯だ。

63 オリヴァー 消えるだろう。克服できるだろうって。

64 フィリップ そのとおり。

65 オリヴァー でもそこで、君と出会って……

66 フィリップ 克服できる。

67 オリヴァー それ以上のものだってわかった。

間。

68 オリヴァー それは自分のすべてだ。捨てられるようなものじゃない。ただの一部分じゃない。

間。

74 オリヴァー 子供のころを思い出す。暗くて、誰にも言えない秘密に気づいてた。自分が何に焦がれているか。自分は何者か。だから夜も眠れなかった。おそろしかった。何もかもが、誰もかれもが、僕に向かって告げていた、それは間違いだって。

75 フィリップ 間違いだ。

76 オリヴァー 僕もそう思った。信じてた、世界じゅうが僕にそう告げるなら、世界が正しいに決まってる。疑うなんて何さまだ？

77 フィリップ 何を言おうとしているのか僕にはわからない

78 オリヴァー 僕が言ってるのは、君と出会ったとき、君に恋をしたとき……僕にはわかった、それは真実だって。間違っているのは世界だって。僕の気持ちは正直で純粋で善きものだって。

間。

79 オリヴァー　こんな場所があった。公園のなかに。男たちが出かける場所。

間。

81 オリヴァー　僕行ってみた……一人男がいて、そいつが……僕はそいつを知らない。そいつも僕を知らない。ほとんど話もしなかった。一言だけ。お互い顔も見なかった。そのとき……そのときまるで僕はそこにいなかった。二、三分で終わった。

82 フィリップ　もう帰ったほうがいい、オリヴァー。

83 オリヴァー　でも僕は……でも僕らは……僕らのときはそうじゃない、同じじゃない。なぜってほら、べつのものがあったんだ、フィリップ。二人で言葉を交わして何かがわかったと思った、君は何者か。君の恐怖。君の孤独。君の求めるもの。目を見ればわかった、君も僕と同じ、善き人間だって。

84 フィリップ　善き人間？

85 オリヴァー　そう、フィリップ、善き人間。善き人間。善き人間。あのときはじめて、いっしょにいて、お互い抱き合ってはじめて感じた、僕にはプライドがあるってこと。僕という人間でいることのプライド。

86 フィリップ　それが僕に話さないといけないこと？

87 オリヴァー　そう思う。話さなきゃいけない、僕らのあいだに起きたことはちがうってこと。僕が行ったあの場所とはちがう。

88 フィリップ　おんなじだ。君は自分を偽ってる。間違ってる。

89 オリヴァー　僕は思った、ああいう男たちのなかには、あの薄暗がりを徘徊して待ってる男たちのなかには、選んでやってる人間もいる、たぶんたいていはやりたくてやってる、だけどそれは知らないからだ、どこで……どうすれば見つかるか、しかも自分はしよせんそういう人間だって言われているから、自分は暗がりに立って誰かに触るのを、べつの男の肌に触るのを待ってる人間だって、だから自分はそれだけの人間だと思ひ込んで、だけど彼らが求めているのは、彼らが本当に求めているのはそれ以上のもの、僕らがいま手にしようと思えばできるもの……誰かとの深いつながりなんだ、せめてそこにしがみつくなことができたなら。

90 フィリップ　話はすんだ？

91 オリヴァー　だって出会った瞬間から感じたんだ、まるで君だけが僕の本当の名前を知っていたように。

92 フィリップ　どういうこと？

93 オリヴァー　まるでおたがい同じ言葉を話しているような。

間。

97 フィリップ　なあ、オリヴァー、僕はシルヴィアを愛してる。シルヴィアも僕を愛してる。僕らは夫婦でお互い愛し合っている。これまでのことは……僕ら二人のあいだに起きたことは単なる過ちだった。君が何と呼ぼうとかまわない。一瞬の弱さ。弱さ。それだけだ。

98 オリヴァー　でも君は言ってた――

99 フィリップ　いろいろ言ったかもしれない、オリヴァー、でも残念ながらきつと本気じゃなかったんだ。だって、僕は正気じゃなかった。取りつかれたようだった。ただわかってほしい、僕は君のことを悪く思っていない。君はまともな男だって信じてる。僕をそのかしたとも、誘惑したとも、悪気があったとも思わない。僕にだって責任はある。二人ともが過ちを犯したんだ。それだけ。君の幸せを祈ってる、オリヴァー。でも何が起きたかを思い出すと……正気を取り戻したいまになって、僕ら二人のあいだに起きたいろんなことを思い出すと、恥じる

100 オリヴァー
吐き気？

101 フィリップ
今日は僕を説得しに来たんだろう、僕らがお互いを思う気持ちは、君が僕を思う気持ちは高潔で純粹なものだって。

102 オリヴァー
そうだ。

103 フィリップ
もちろん、友人として思ってくれるのはいい。それは僕も同じだ。でもそうじゃなくて……君がさっき話していたこと……そういう場所、そういう連中。

104 オリヴァー
彼らは何？

105 フィリップ
そういう場所……さっき雄弁に語ってくれた場所。そいつらは僕とはちがうし僕もそいつらとはちがう。僕に正直になれと言うなら、オリヴァー、あいつらには身の毛がよだつ。あわれだとは思うけど身の毛がよだつ。見たことはあるよ……実際よく見る。気づいてる。人ごみでもバスでも通りでも、僕は吐き気がする。あいつらの歩き方、人を見る目つき。僕はあいつらとはちがう、オリヴァー。そして君もきつとちがう。だからお互いこのことは水に流さないで。それがいい。絶対にそれがいい。

106 オリヴァー
本当に？

107 フィリップ
いつの日か感謝してくれるだろう。これはある意味、君を守るためだってことを。君自身から。僕なりの妙なやり方だけど、これは僕から君への贈りものだ。別れの贈りもの。

長い間。

108 オリヴァー
帰ったほうがよさそうだな。

109 フィリップ
ああ。

間。

110 オリヴァー
彼女は知ってるよ、フィリップ。

111 フィリップ
知ってるって何を？

112 オリヴァー
全部知ってる。君のこと。彼女は全部知ってるんだ、フィリップ。

113 フィリップ
どういう意味だ？

114 オリヴァー
君が夜眠れずにいるわけを。君の心をかき乱すものを。君が恐れるいろいろなものを。君の孤独な考えを。だからいまこそ——だってこんな機会は二度とめぐってこない——いまこそ君も考えないと、なぜ君は彼女の気持ちを踏みにじるのか。何もかも偽って。僕ら二人のことを言ってるんじゃない。僕らのあいだに起きたことじゃない。正反対のことを言ってる——君があるがままの事実を拒絶してるってことだ。

115 フィリップ
シルヴィアの話はしないでくれ。
どうして？

116 オリヴァー
こんなふうに彼女の話をしたくない。僕らだけで。こうやって。妻のことを話題にしたくない。

117 フィリップ
僕が軽い気持ちで話しているとでも？シルヴィアのことが心配なんだよ。心から。

118 オリヴァー
その話はしたくない。

119 フィリップ
でも僕にはわかった、これは彼女が望んだことなんだ。これじゃない。今のこの状況じゃない。僕らのこと。僕らの出会い。彼女が望んだことなんだ。

120 オリヴァー
頭がおかしいよ。

121 フィリップ
彼女が結びつけたんだ、フィリップ。僕にはわかる、彼女が僕らを結びつけた。

122 オリヴァー
狂ってる。

123 フィリップ
無意識かもしれない、自分が何をしているか、はつきりとわかっていなかったかもしれない。でも胸に手を当てて誓ってもいい、シルヴィアが僕らを結びつけたんだ。

124 オリヴァー

間。

125 オリヴァー 君が移住を考え始めたのはいつだろう。

126 フィリップ 移住？

127 オリヴァー そう。海外に。言ってたよね。僕らが出会った夜。シルヴィアは言ってた、家じゅうにアフリカの本があるって。

128 フィリップ なんだってそんな話を？

だから、その夢を見るようになったのはいつだろう？ 十七歳、十八歳、いつ？ もしかすると大人の男になろうとしていたころ。自分自身を見つけたころ。自分が本当は誰なのか、人生に何を求めているのか。大平原、君は思った。アフリカの平原。悪い場所じゃない。そこにいる君が見える。この国は狭い。君にはもっと広い場所が必要だ。深呼吸できる場所。だから君は旅立つ。僕には見える。ブライトンより遠くへは行ったことがないって言っていたけれど、僕には見える、君ははるかかなたにいる。冷たい海峡を渡り、地中海を渡り、夢見たアフリカの大地に立ってる。そこで何をしてる？ 農業？ 狩り？ 教師？ きっとそんなことはどうでもいい。そういう場所で、そういう空の下で君はどうとう発見する、自分は何のためにそこにいるのか。

フィリップ、立ち上がり、オリヴァーから離れる。

131 オリヴァー じゃあ二度と会わないよ。

132 フィリップ ああ。

133 オリヴァー それが君の望みなんだね。

134 フィリップ お互いにとって必要なことだ。続けること。もとの状態に戻ることに。

135 オリヴァー でも何の意味が？

136 フィリップ 意味？

137 オリヴァー そんな馬鹿げた、苦痛な人生に何の意味があるんだ、自分に正直になれないなら？ 自分の芯にあるもののために闘わないなら？

138 フィリップ わからないよ。わからない。

139 オリヴァー 僕に何かが起きたんだ、フィリップ。戻れないよ。もとの状態には。

140 フィリップ どういう意味だ？

141 オリヴァー 大丈夫、君が来てくれるとは思ってない。僕はもう何も期待しない。君には何も。

142 フィリップ 悪かった。

143 オリヴァー 君は軟弱だ、フィリップ。

144 フィリップ 僕はべつに……

145 オリヴァー 何？

146 フィリップ だからってべつに……

147 オリヴァー 言ってる。

148 フィリップ いい。何でもない。

149 オリヴァー 頼むから言ってる。

150 フィリップ 楽じゃないんだ。楽じゃない。

間。

151 フィリップ 出会わなきゃよかった。シルヴィアが君を連れてこなきゃよかった。

152 オリヴァー 君は誰だ？

153 フィリップ わからない。もうわからない。

154 オリヴァー わかったことなんか一度もない。いまがそれを知るチャンスだった。君には強さが足りないんだ。死ねばいいよ。フィリップ。自分が誰だか知らないままで。

155 フィリップ 黙れ。
156 オリヴァー まったく愚かで、哀れな人生だよ。

突然、フィリップはオリヴァーの顔を殴る。反射的な、窮地に追い詰められた動物の反応である。オリヴァーは後ずさるが、フィリップも同じく動揺している。オリヴァーの口からすこし血が出ている。

157 フィリップ ごめん。ああ、こんな、本当にごめん、オリヴァー。本当にごめん。

オリヴァーに近づく。オリヴァーはひるむ。

158 フィリップ 見せて。

オリヴァーは任せる。

159 フィリップ ごめん、本当にごめん、本当に。

160 オリヴァー 心配いらない。大丈夫。

161 フィリップ 本当にごめん。そんなつもりは……本当にごめん……

162 オリヴァー 大丈夫。本当に、大丈夫だから。

するとフィリップは泣き始める。オリヴァーの腕のなかにくずおれ、子供のように泣きじゃくる。

164 オリヴァー 心配いらないよ、フィリップ、心配はいらない。

オリヴァーはフィリップをなだめる。オリヴァーはやさしさを保とうとする。フィリップが何かほかのものに取りつかれる——何か差し迫った、攻撃的なものが沸き起こる。

165 オリヴァー 待って、フィリップ、待って。

166 フィリップ いやだ。

もみ合いのようになり、フィリップがオリヴァーをソファの方へ引っ張る——動作はますます乱暴になる。相手と自分の服を引きはがす。

167 オリヴァー だめだよ、フィリップ。こんなのは。いまは。ここでは。待って。

フィリップは乱暴になっている。オリヴァーを組み敷く。オリヴァーは抵抗する。フィリップはズボンのジッパーを開け、オリヴァーのズボンをどうにか半分ずり下ろす。オリヴァーの背後から挿入する。オリヴァーははじめ抵抗するが、やがて屈服する。フィリップはほどなく絶頂に達して射精し、オーガズムの瞬間、おそろしく苦悶に満ちた解放の叫びを上げる。二人はしばらく床に横たわっている——フィリップは恥にまみれて顔を隠し、オリヴァーも顔を隠す。

とうとうフィリップが立ち上がる。静かに、ていねいに服を着て、ソファに座る。いつときが過ぎる。
ゆっくりと痛々しく、オリバーは立ち上がり、乱れた服を着直す。完全な静寂のなか、一、二分が過ぎる。

オリヴァーはゆっくり部屋を歩き、コートかけへ向かう。自分のコートを見つけ、それを着る。フィリップのことは見ない。うつむいている。玄関へ向かうが、立ち止まる。

間。

169
オリヴァー
君のこと、わかってるつもりになった。

部屋を出ると、ドアを閉めて去る。
しばらくしてフィリップは立ち上がり、部屋から出ていく。

一幕終わり

第6場

二〇〇八年

オフィス。オリヴァーの向かいにピーター。ややうさんくさい商売人である。

1 ピーター

でセバスタン・ニコルズに訊いたらさ、「優秀なクィア・ライターを探してるなら、街いちばんのを知ってる」って言うんだよ。これって大丈夫？ つまり、こんな言葉使うのってさ、「クィア」って言葉、大丈夫？ 傷つけないからさ。

2 オリヴァー

傷つきませんよ。

3 ピーター

だってわかんねーじゃん？ つまり、自分が正しい言葉使ってるかどうか。てゆーか、いまさらポリコレなんて古いついていうのはわかってる——何だよそれ？ って——でも俺は好んで人を傷つけるようなやつじゃない。要はさ、何が正しい言葉かなんてわかんないってこと。おたくらをクィアって呼ぶのはさ、黒人を「ニ」で始まる言葉で呼ぶのと同じかもって思ったわけよ。仲間内ではいいんだろうけど、でも……

4 オリヴァー

クィアは大丈夫です、クィアは。

5 ピーター

境界線を押し広げる、とにかくそういう話。もしかして見たかな、うちで載せたイラクの記事。

6 オリヴァー

いえ、見逃しました。

7 ピーター

あるガキンチョが戦争から戻って両腕なくしちゃってんの。そいつを一週間追っかけた、日記風ってゆーかさ、どんだけ生活が変わったかとかクソほど苦労してるとか、彼女にふられちゃったとか、あとつまんねーことも、日常のこと、ATM使うとか、どっからどっかまでたどり着くとか、めっちゃ感動だよ、つーか、みんなの心のスイッチ押して考えさせる。パワフル。

8 オリヴァー

でしょうね。

9 ピーター

だって人生大事でしょ、オッパイとケツ、オッパイとケツ、オッパイとケツ、おまけ程度にサッカーとか、その程度じゃ困るんだよ。一晩で意識高い系の雑誌になろうってわけじゃないけどさ、うちには幅広い読者がいるし、たいてい感度のいいガキンチョなんだ、やつら言うじゃん、力には責任がともなうとか。

10 オリヴァー

言いますね。

11 ピーター

だって要はさ、そういうガキンチョって、たいていセックス大好きなわけ。マジで、たいていのやつはブタともやっちゃうよ。で何が言いたいってさ、「時代は変化してる」ってこと、いや、ほんとだよ、マジで。こないだ夜みんなど遊びに出てさ、一人が、デイヴって名前の、若干クソ野郎だけど悪いやつじゃない、そいつが二、三杯やって、タイに行ってきた話すんの、彼女ホテルに放ったらかして、シャングリカどっかに泊まってやがんだけど、街歩いてるうちにムラムラしてきて、ありがちでしょ、で気づいたらニューハーフにチンチンしゃぶってもらってたんだって。ニューハーフだぜ。その話にみんなドン引きで「はあ？」って、そしたらデイヴ、「生涯最高のフェラだった」って、みんなからかったり笑ったりしてんだけど、二分経つとビリヤードに戻って忘れてるんだ。十年前なら絶対ない、時代は変化してる、デイヴだって秘密にした。けどさ、いまだき誰が気にすんの？ だから、結局のところ、オリヴァー、下品に聞こえたらごめんね、問題あれば遠慮なく言っ

12 オリヴァー

大丈夫です。

13 ピーター

俺はこう思ってるわけ、押せ押せで行こうぜ、こわいもんなんてない、結局みんな人間なんだし、結婚とかしなくていいじゃんよって。いまこそガキンチョどもに言ってるやないと、そういうので興奮してもオッケーだぜ、ゲイってクールだろとか、自分のなかのホモフォビアとガッツリ向き合え、乗り越えろとか。そこで記事にしたいのが、ゲイのセックス・ライフ、細かいことはいいからざっくりと？ 公共の場所でのセックスとかそういうの、読者がちよっとうらやむようなさ、たとえば、そうだな、公園や公衆トイレに足を踏み入れてごらん、昼で

も夜でもいつでもいい、そしたらそこには超かわいい女の子が勢揃い、ただハメてもらうのを待ってる、どうだこれってすげーだろ？ みたいなき。ゲイのセックス・ライフをストレートの男たちに。

ゲイのセックスライフをストレートの男たちに。

で、ぜひとも俺がほしいのは、やつらが自分を見出して、同時に「ゲイでもオッケー」ってなる記事。考え方を変えるような。ゲイはクール。そんな感じの。ゲイの男はみんなわかってる、自分が何を求めているか、それをどうやって手に入れるか。あらゆる分野のイノベーター——音楽、ファッション、野外乱交。それを雑誌に載せるだけで——世に出すだけで——読者の意識を変えられる。ガキンチョ向けの雑誌がみんなゲイのセックスを取り上げるわけじゃないからさ。これがはじめに言ってたことよ——バリアをぶち破る。

はい。

基本的に俺が言ってるのは、俺のビジネスと社会にとって正しいことが両立できれば、それはいいことなわけ。なかでもバリアをぶち破るっていうのは超大事。おたくらそれに超ふさわしいから。

間。

18 ピーター いやつまり、おたくら権利を求めてめっちゃ闘ったわけじゃん。クソな社会と闘ったんだ。

クソほどの無知と。

19 オリヴァー たしかに。

実はオリヴァー、俺だつてさ、個人的なつながりがあるんだ。いやつまり、ゲイの世界に。

ゲイの運動つてゆーかさ。おじさんがいるんだ。

21 オリヴァー みんないますね。

いや、でもマジで。すげーおじさん。マジかっこいい。お袋の兄貴よ。ハリーおじさん。マジいい人で。思いやりがあつて。ハエも殺せない。市会議員だった。エイズになっちゃった。

22 ピーター お気の毒です。

脳裏に焼きついてるよ。べつたりと。あの日。最後に会ったとき。もう死にかけてた。そんなとき俺は、えっと？ 十二か十三でさ。お袋が俺と弟を入院先のロイヤル・フリー・ホスピタルに連れてくんだ。特別病棟で医者もなんだかわかってない、いや、エイズなのはわかってたけど初期のころで、つまりよくわかってなかったんだ、うつる病気なのか、どうやってうつるのか、だからお袋はグラス捨てたり、おじさんがうちにきたとき使ったやつね、もちろん本人の前じゃなくて帰ってから、アホかと思うけど、当時はよくわかってなかったから。

で病室に行くと、ハリーおじさん、変なシートのなものをかぶってる、なんか特別なシートで、配線とか点滴のチューブとかいろいろ通してあつて。えれーことになってる。人工呼吸器もつないであつた、息もろくにできないから、その音がき、頭ヤバくなるくらい、ぜえぜえ言つて、いかにも死ぬって音なんだ。見たことねーよ。でちょっと変なのがき、俺身を乗り出して、状況にちょっとビビってたから、お袋が言うんだ、「ハリーおじさんに『こんにちわ』でしょ」、でもそれってさ、「ハリーおじさんに『きよなら』でしょ」って意味なわけ、先は長くないってみんな何となくわかってた、だから俺はかgando、シートのなものが邪魔なんだけど、のぞき込んだら。ヤベーよほんと。マジヤベー。おじさんの目が。なんつーか、ほかの部分は死にかけてんのに目だけはき。心ののぞき窓つーか。そういうの。目から愛があふれちゃつて。マジで心つぶれちゃうよ。

間。

25 ピーター

で帰ろうとすると、野郎が一人座ってた、一メートルほど離れて、こっち見てにっこりするもんだから、「誰だよお前？」って感じでさ、だって俺まだ十二歳かそこらだし、よくわかん

ないまま、お袋になんかぐいっと手え引かれて出てきたわけ、であの人誰って訊いたらさ、「あれはハリーおじさんのお友達」って。そのあと知ったんだけど、二人は二十五年間いっしょに暮らしてた。二十五年だぜ。それってめっちゃ長いだろ。つまり、めっちゃマジな関係だよ。だからお袋に訊いた、なんでそれまで会ったことないのか、ハリーおじさんの友達なのにどうしてか、お袋はちゃんと答えてくれなかった。「会ったことがないだけよ」って。人って変だよ。

間。

26 ピーター
そう、それが俺の個人的なつながり。つまり、ゲイの世界との。ハリーおじさん。だから敬意を示したくて。

27 オリヴァー
ありがとうございます。その、話してください。

28 ピーター
だから俺が思うに、オリヴァー、まずはこうやってしゃべれてよかったよ、メールでもうすこしアイデア送る。どんな記事がいいか。でも肝心なのは重くならないこと。そしてちょっと興奮させる。

29 オリヴァー
興奮させる。

30 ピーター
あとカネのほうは大丈夫？

31 オリヴァー
四千で。

32 ピーター
前払いで二千。

33 オリヴァー
はい。

34 ピーター
仕上がったら二千。

ピーター、手を差し出す。
オリヴァー立ち上がる。

35 オリヴァー
わかりました。

二人、握手をする。

第7場

一九五八年

公園。ベンチが一脚ある。シルヴィアが待つところにオリヴァーが現れる。二人は立っている。秋の午後である。

0 オリヴァー

シルヴィア。

間。

1 シルヴィア
2 オリヴァー
3 シルヴィア
4 オリヴァー
5 シルヴィア
6 オリヴァー
7 シルヴィア
8 オリヴァー
9 シルヴィア

来てくれてありがとう。
こちらこそ。久しぶり。
変に思ったかもしれないわね、ここで会おうなんて。公園で。でもこんなに穏やかな陽気だし、すべてがこんなにも……
こんなにもきれいだし。
それにわたし、そとに出る必要があったの。最近はどううちにいたから。たまに忘れてしまふの、そとに世界が広がってること。ほかに人がいること。
ここで会うのは素敵だよ。
それにフィリップはほとんどうちにいない。忙しいの。急に仕事に追われてしまって。だから出かけるのはいい。
元気そうだね。
そう？

間。

10 シルヴィア
11 オリヴァー
12 シルヴィア
13 オリヴァー
14 シルヴィア
15 オリヴァー
16 シルヴィア
17 オリヴァー
18 シルヴィア
19 オリヴァー
20 シルヴィア
21 オリヴァー
22 シルヴィア
23 オリヴァー
24 シルヴィア
25 オリヴァー
26 シルヴィア

このあいだ書店の前を通ったの。ウィンドウにわたしたちの本があった。ほんとに誇らしく思えたわ、一瞬。ほんとに、とっても誇らしく。
それはそうだよ。
また一緒にやれたらと思うの、オリヴァー。厚かましいことじゃないでしょうか？
ちっとも。
お願いしてるの、わたし。勇気を振り絞って言ってみた、わたしには大切だったから。もちろん、またいっしょにやろう。
がっかりしたんじゃないかしらって。
がっかり？
ああ、ほら。仕上がったとき、本が無事完成したとき、あなたの期待に届かなかったんじゃないか。がっかりしたんじゃないかって。わたしの仕事に、わたしが果たした役割に。ちっとも。
最初の期待に届かなかったんじゃないかって。
そんなふうに考えちゃいけない、決して。僕は最高に満足してる。
わたし理由がないか探していたのね、なぜわたしたち長いこと会わなかったか。
僕がとても忙しかったから。
それはそう。
間違った印象を与えてしまったなら謝るよ。そんなの真実からは程遠い。
ありがとう、おかげで安心した。どこか神経質になっていたのね、そんなはずないって自分に言い聞かせようと。

座る。間。

28 シルヴィア あなたの友情がわたしにはとても大切なの。

29 オリヴァー 大丈夫、シルヴィア？

30 シルヴィア 芝居をやっていたころは、こういうつながりを感じられる人がいた。率直に話せる人がいたの、すごく大事で興味深いことを、もしかすると個人的なことも。ほかの人には話せないこと。フィリップにさえも。フィリップにだけは。

31 オリヴァー 演劇の世界っていうのはね。

32 シルヴィア それからあなたと出会って同じものを感じた。わたしたちはくだらない世界の人間じゃない、愚にもつかないおしゃべりをして、人の尊厳を傷つけたりしない。気心の合う人。何でも遠慮なく話すことができ、何でも遠慮なく話してくれると思える人。

間。

33 シルヴィア わたし孤独なの。

間。

34 シルヴィア こんなこと言うなんてひどい？

35 オリヴァー ちつとも。

36 シルヴィア だって。結婚してるのよ。わたしは夫と暮らしてる。なのにとどき夜中に目が覚めて、ベッドの上で思うの、なんて孤独なんだろうって。その孤独は毛布のようなもの。心地いい毛布じゃない。もっと暗いもの。重苦しい。かぶると息が詰まりそう。本当にごめんなさい。ごめんなさいって？

37 オリヴァー 呼びつけたこと。うちで何か書いてたんでしよう、せっかく集中していたのに、公園に呼び出されて、狂った女の愚痴を聞かされるなんて。

38 シルヴィア 君は狂ってなんかいないよ、シルヴィア。

間。

43 シルヴィア あなたのものを見つけたの。

44 オリヴァー 僕のもの？

45 シルヴィア うちで。ポケットから落ちたのね。いつかしらって思ったの。あなたはうちに三回来た。最初はじめて来たとき、あなたがフィリップに会えるようわたしたちが招待した日。イタリヤ料理屋に行った夜。そのあと二回。あの最終版の挿絵を見にきた朝、わたしがひどい風邪をひいて、あなたの部屋に行けなかったとき。それから最後は本の出版パーティーの夜、そのときはたったの五分、あなたが車で送ってくれて、軽くブランデーを飲んだ。だからわたしがいるときは三回だけ。当然、三回とも居間にしかなかったし、お手洗いには行っただしょうけど、正直それも思い出せない。

ハンドバッグからペンを取り出す。

46 シルヴィア あなたのペン。すごく大切にしているもの。お姉さんがくれたもの。肘かけ椅子のクッションの後ろにあった。寝室の緑の肘かけ椅子。上着から落ちたのね。いつも内ポケットに入れてたでしょう？

47 オリヴァー うん。そうだね。入れた。

48 シルヴィア じゃするっと落ちたのね。

49 オリヴァー うん。

50 シルヴィア わたしが母を訪ねていたときかしら。一週間は留守にしたものね？

間。

51 シルヴィア どうぞ、オリヴァー。あなたのよ。あなたのペン。

オリヴァー受け取る。長い間がある。

52 シルヴィア わかってちょうだい、わたしはあなたを責めない。本当よ。もちろん傷つくし動揺した、あ

なたがよりによって……わたし動揺したわ、あなたが……だってあなた、家はあるわけだし、自分の家があるのに、よりによって……笑えるでしょ？何よりもそのことに取り乱すなんて、きつとそれしかなかったのね、この件について意外だったことは。あなたがあの場所を選んだこと。おかしい。

間。

53 シルヴィア それでもね、わたし考えてみたけど、それでもあなたを責めたりしない。うそで固めた日常

を、いつわりの日常を送ってれば、細かいことはぼやけていくものだから。分別が損なわれていく、ということなのかしら。判断する力が。だから普通の状況なら、あなたはわざわざあんなやり方でわたしを侮辱したりしない。そう思いたい。

ふと泣き始める。

54 オリヴァー 本当にごめん。

55 シルヴィア ずっと時間の無駄だった。いまの自分を見るとね、鏡の中の、わたしの顔は、自分を忘れた、忘れられた女の顔なの。

間。

56 シルヴィア フィリップとはまだ連絡を？

いや。いや、取ってない。

57 オリヴァー それを選んだのはフィリップ、あなた？

58 シルヴィア フィリップ。僕が彼なら君と同じことを選んだ。

59 オリヴァー わたしと同じ？

60 シルヴィア 正直な人生を生きること。

61 オリヴァー 正直な人生。

62 シルヴィア そう。

63 オリヴァー

間。

64 シルヴィア あの人幸せだった？

65 オリヴァー 幸せ？

66 シルヴィア 教えて。あの人幸せだった？少なくともその午後は。その朝は。幸せだったの？

67 オリヴァー 僕には……それは……

68 シルヴィア 難しい。難しいでしょうね。

69 オリヴァー うん、僕には……

間。

70 オリヴァー
もしかすると一度。ほんの短い時間。ほんのつかの間、フィリップは可能性を垣間見たのか
もしれない、つまり……

ためらう。

71 シルヴィア
勇気を持つ。

72 オリヴァー
そう。それだよ。

73 シルヴィア
それを思うと憤りが込み上げた。あなたたちの幸せ。一日か二日は心底二人を憎んだわ。な
ぜってたとえ二、三回でも不倫してるあいだ、あなたはほんのつかの間って言ったけれど、
そのときあの人は本当の自分になれたんでしょ、わたしといえなくてもなれなかったものに。あ
なたの言う垣間見た瞬間に。

間。

74 オリヴァー
本当にごめん。僕は恥ずかしい。

75 シルヴィア
でしょうね。

わたしが心から願うのは……

76 オリヴァー
うん……

77 シルヴィア
わたしが心から願うのは、あなたが自分の探しているものを見つけること。楽じゃない。わ
かっている。あなたも孤独なはずよ。

78 オリヴァー
うん。そうだね。

シルヴィアは行こうとするが、立ち止まる。

79 シルヴィア
あの夜あなたがはじめて来たとき、何かが起きた、そうでしょう？わたし、感じたもの。あ
れは何かしら。あの場に立ち込めていた。わたしもそれを感じたい。誰かにそれを感じても
らいたい。さようなら、オリヴァー。

シルヴィアはベンチにオリヴァーを残し、歩き去る。
しばらくして、オリヴァーも去る。

第8場

二〇〇八年

シルヴィアのアパート。ノック。彼女が部屋に入ってきてドアを開けると、そこにオリヴァーがいる。口から血が出ている。

1 シルヴィア
ぎけんなよ。

2 オリヴァー
もうそういうあいさつやめてくれる？ いい加減感じわりーよ。

5 シルヴィア
血が出る。

6 オリヴァー
相変わらず、驚異的な観察力。

7 シルヴィア
あんた何やってんの？

8 オリヴァー
近所にいて。

9 シルヴィア
何があったの？

10 オリヴァー
事故。

11 シルヴィア
事故？

12 オリヴァー
細かい話はあとにしてくれる、お宅が血の海になっちゃうよ？

13 シルヴィア
何したの？

14 オリヴァー
切り傷だよ、たかが。キッチンペーパーで十分です、ミス・ナイチンゲール。

15 シルヴィア
座って。

オリヴァーは座る。シルヴィアはペーパーを取りにキッチンへ駆け込む。

16 オリヴァー

ダークな趣味の持ち主でさ。あんたって予言の天才だね、ミス・ノストラダムス。何覚に投票してるやつか知らないけど、なんちゃってリベラルですらない。原始人、そう呼ぶのが正しい。ピンストライプのスーツ着て髭も剃ってるけど、絶対そう。あんなぴかぴかのレースアップ・シューズ見たことないよ。いまだき見た目じゃわかんねーわ。ほら穴から這い出したばかりには見えない。

シルヴィアがキッチンペーパーを手に駆け戻る。オリヴァーが鼻をぬぐうよう、すこし渡す。

17 シルヴィア
たしか言ってたよね、このままじゃ人生もたなくなるって。

18 オリヴァー
ちよっと見にいっただけ。

19 シルヴィア
きのうのきょうだよ。

20 オリヴァー
そんな最近？

21 シルヴィア
一週間は我慢すると思ってた。

22 オリヴァー
あんたの説得も街のデカマラの誘惑には勝てなかったんだね。

23 シルヴィア
ったく何があったの？

24 オリヴァー
僕スーツの男に目がなくて。

25 シルヴィア
明らかね。

26 オリヴァー
兆候はあったの。やり始めたら言葉責めがいつも若干リアルで。

27 シルヴィア
どんな言葉責め？

28 オリヴァー
形容詞の使い方がすごいんだよ。名詞の使い方もぶっ飛んでて、絶句しちゃった。もちろんそれだけじゃないけどね、なかなか言葉返せなかった理由は。

29 シルヴィア
さようでございますか。

30 オリヴァー
で、絶頂を迎えたたん、そいつ、僕のことを押してきて。何てゆーか——邪魔だ、急用があるんだみたいな、友達が待ってるとか、女房連れてディナーとか、スーパーが閉まるとか。そんなようなこと。ぐっと押されただけ。

31 シルヴィア 血が出てんだよ。
32 オリヴァー ロレックスだね。なんかじゃらじゃらしたもの。上くちびるに残念な角度で入っちゃった。
でも押されただけ。パンチじゃない。

33 シルヴィア なら、いいけどさ。

34 オリヴァー ゆえに「事故」って言葉を使いました。何がほかかわからないうちに向こうは仕事に戻った。
35 シルヴィア もし気づいてれば、愛車のジャガーでうちまで送ってくれたらうね。
36 オリヴァー 間違いない。

間。

37 シルヴィア ざけんなよ、オリヴァー。

38 オリヴァー リサーチだよ。

39 シルヴィア 「リサーチ」？

40 オリヴァー 不特定多数とのセックスについての記事。なぜか僕に白羽の矢が。

間。

41 オリヴァー ゲイの同胞の大群に囲まれるっていえばさ、明日の件だけど。

42 シルヴィア プライド？

43 オリヴァー うん。僕、行かない。イタリア人に謝つていて。
44 シルヴィア 来るでしょ。

45 オリヴァー 行かないマジで。一日ベッドで過ごすつもり、傷を癒さないで。
46 シルヴィア フィリップも誘ったよ。

47 オリヴァー うそつき。

48 シルヴィア 彼、寄ろうかかって。わたしのためって言ってたけど。あんたも来るって伝えたよ。かまわないって、お互い大人だし、何とかなる。そんなようなこと。

49 オリヴァー それ本気で言ってる？

50 シルヴィア なんでわたしがうそをつく？

51 オリヴァー 容赦なく目的を遂行するタイプだから。

52 シルヴィア フィリップは来る。よかったら来な。それかベッドに引きこもって考えてれば、孤独と死について。

53 オリヴァー それはどうも。

54 シルヴィア 知らせてよ。お弁当の支度があるから。

55 オリヴァー だいたい時代錯誤だよ。ピチピチのTシャツとか羽根飾り背負ったドラァグクイーンとか。

56 シルヴィア 何でもいいけど、あれって意味あんの？教えてよ。あれってデモンストレーション、セレブレーション、それともファッションショー？

57 オリヴァー あまのじゃく。

58 シルヴィア 一万人的おネエが腕の太さ褒め合ったり。マジでだっせーわ。

間。

59 シルヴィア ところできれいじゃん。

60 オリヴァー ありがと。

61 シルヴィア みんなでパーティー？

62 オリヴァー 一人。単数。そのとおり。
あつそ。

ディナーに来るの。

お料理中？

そう。

いいにおい。

ありがと。

まさかイタリアンじゃないよね。マンマの料理と比べるよ。あいつらみんなそう。

そうなの？

イギリスのモンにときな。冷凍のグリーンピースとかそういうの。

そろそろ来るんだけど。

興奮するー。

間。

で、他に何か言ってた？

フィリップ？

ううん、エルトン・ジョン。うん、フィリップ。

本の話をした。

本？

いま読んでる本のこと言ってた。何かハンガリーの。

でも僕のことは何も言ってなかった。

何にも。さっき言ったことだけ。会うのはかまわないって。

間。

ぎけんなよ。僕のスイッチの入れ方わかってる。

当然でしょ。

僕が行くってわかってる。

当然でしょ。

また会いたい。いっしょにいたい。

フィリップは特別だよ。ふところが深くて、正直で、いちずで。

心底思いやりがあつて。

おまけにハンサム。

間。

たまに……

何？

こういうのって、ない？

どうなの？

人生のはかなさに愕然とすること。はかなさ。気まぐれ。まるで花火。

それはある。

そういうとき感じるんだよね、たった一つ大事なことは意味を見つけることだって、はかな

さにビンタ食らわす何かを。自分はここにいたって言うために。存在したんだ。いたんだっ

て。たぶんその方法は二つしかない——仕事、それから人との関わり。どれだけ人を変えた

か。どれだけ変えてもらったか。どれだけ踏ん張ったか。お互いに。せめて精いっぱいやっ

てみたか。それで花火の美しさは決まる。

アーメン。

間。

99 シルヴィア どうすんの？

100 オリヴァー どうすんのって？

101 シルヴィア できることは一つしかない。

102 オリヴァー つまり？

103 シルヴィア やめるんだよ、そういうやつをくわえるのは。

104 オリヴァー 誰のブツ？

105 シルヴィア あんたを抑圧する男のブツ。

106 オリヴァー それは深いわー。

107 シルヴィア ナチスIIロレックス系の男。

108 オリヴァー 生涯学習講座みたい。「ふしだらな同性愛者のためのマルクス理論」。

109 シルヴィア でも近い将来ファシストのブツを口から出して、そいつを見上げて言うの、たとえば――

110 オリヴァー 「ねえ聞いて」――

111 シルヴィア 「ねえ聞いて、ぶ立派なイチモツにはたまげたけれど、決めました、何十億年前、魚の先祖が暗黒の海底から這い出たときのような、ちよっとした気分、これからはあたくしくわえるイチモツは選びます――

112 オリヴァー ソーシャルワーカーかヨガのインストラクターにします――

113 シルヴィア 正義、平等、互いに尊敬し合う精神、そういうものを持ち合わせた人、せめてそう思える人になります。そういう進化の飛躍が必要です、そうしなければ神様はあたくしにどのような末路を用意することでしょう？」

114 オリヴァー ドブのなか。檻のなか。実存的恐怖のボンデージマスクで窒息死。

間。

115 シルヴィア 解決してよかった。じゃわたしそろそろ……

116 オリヴァー そろそろ何……

117 シルヴィア マリオが来るころだから支度とかね。いろいろと。

118 オリヴァー 帰れるってこと？

119 シルヴィア いや、まあ、一杯だけ飲んでマリオに会ってくるのはかまわない、けど……

120 オリヴァー けど何？

間。

121 シルヴィア つまりはこういうこと。いてあげるのが楽しくないってことじゃない。たまにはね。実際に

122 オリヴァー てあげてるし。

123 シルヴィア たまには？

124 オリヴァー わたし余裕が必要なの、オリヴァー。しかも今晚だけのことじゃなくて。

125 オリヴァー 余裕？ という意味、余裕が必要って？

疑問が宙づりになる。

126 シルヴィア じゃ、とっとと消えますよ。

127 オリヴァー あんたがここにいとね、何となく支配されちゃうから。

128 シルヴィア 「支配」？

魅力ってゆーか、あんたのカリスマ、あんたの存在感。

129 オリヴァー それってひときじのお砂糖のつもり？

130 シルヴィア だから今夜はそんなふうここにいてほしくないの。わたしほんとに、ほんとに好きな人と
出会えたから――

131 オリヴァー 追い出しかよ。

132 シルヴィア だから圧倒的に思うわけ、これからはちょっと、あんたのことより彼のことに集中しよう
て。

133 オリヴァー 追い出しですか。

134 シルヴィア 悪いことじゃないと思うし。

135 オリヴァー 僕たち終わったね。

136 シルヴィア お互いにとって。

間。

137 シルヴィア はい。言っちゃった。

ブザーが鳴る。

138 シルヴィア ヤベ。

139 オリヴァー 明るい未来だ。

140 シルヴィア もう来ちゃった。

141 オリヴァー じゃ、消えますよ。

142 シルヴィア いて。一杯だけ。そしたら帰って。

143 オリヴァー ぜんぜん歓迎されてないもん、新郎新婦にプレゼントされた Condom みたい。

シルヴィアはドアへ急ぐ。そして立ち止まる。

144 シルヴィア でも明日は来て。公園に。たぶん……

145 オリヴァー たぶん何？

146 シルヴィア たぶん大事だと思うから。それにそう、全部引くるめたものだから。デモンストレーショ
ン。セレブレーション。ファッション・ショー。でもいま言った順番で。

147 オリヴァー 陪審員は審議中。ほら、さっさと開けてやんな。

シルヴィア、ドアを開ける。そこに医者が立っている。医者の上ろにはフィリップ。
二人が部屋に入ってきて座る。シルヴィア、ドアを閉めて部屋を出る。

148 オリヴァー フィリップ。

第9場

一九五八年

1 医者 いくつか、はじめて同性の人間に性的魅力を感じたのは？

2 フィリップ どうだろう……おそらく……

3 医者 思春期、それともそのあと？

4 フィリップ おそらく思春期です。たぶん……十三歳かそれくらい。学校で。

5 医者 手引きは受けました？

6 フィリップ 失礼？

7 医者 手引きを受けたことは？ 子供時代か思春期に。同性の大人から。年上の男性から何らかの

性行為に誘われましたか？ 家族や先生、もしかすると知らない人から。

8 フィリップ いえ、そんなことは。わたしはまったく……

9 医者 おわかりでしょうが、絶対的に必要なのはこれらの質問に真実をもって答えることです。

10 フィリップ ええ。もちろん。

11 医者 どの質問にも、まったくもって正直に、勇気をもって答えないことにはわたしの時間もあな

たの時間も無駄になります。ためらいはすべて脇に置くこと。

12 フィリップ 誘いはありません。手引きもです。誰からも。

13 医者 で、記憶では十三歳ごろに、はじめて同性の人間に性的魅力を感じたと。

14 フィリップ そのことです。

15 医者 自分とその男の子について性的な空想にふけたことは？

16 フィリップ いっしょにいて感じたのは……彼のそばにいたとき。強くて圧倒的な魅力を。

17 医者 ペニスは勃ちましたか？ つまり、興奮しましたか？

18 フィリップ おそらく。どうだろう。全部が、なんというかつながっていました。何もかもが。

19 医者 「つながっていた」。どういう意味です、「つながっていた」とは？

20 フィリップ いや、たしかに体が何か感じたけれど、でもそれは……

21 医者 その男の子とは何らかの性行為を？

22 フィリップ そんな、まさか。わたしは……本当に知らなかったんです、まさか自分以外に……自分以外

にそういう感情をもつ人間がいるとは。

23 医者 どんな空想にふけたか説明してください、ご自分と、その夢中になったという男の子につ

24 フィリップ わかりません。いっしょにいるところとか。肉体的に。

25 医者 肛門に挿入することは？

26 フィリップ わかりません……たぶん。もしかしたら。

27 医者 空想のなかで自分が性的に受け役だったか攻め役だったか、覚えていますか？

28 フィリップ 本当に思い出せません。いっしょにいたいと思ったことは覚えています。肉体的な意味で。

でも細かいことまでは。

間。 医者 は目の前にある何枚かの書類に目を通す。

29 医者 ここに最近一人の男性と性的関係をもったとありますね、数ヶ月に渡って続いたと。

30 フィリップ そうです、はい。

31 医者 その関係では肛門を使ったんですね。

32 フィリップ はい、そうです。

33 医者 その男性とは何回性行為をしましたか？

34 フィリップ その、四ヶ月に渡って。

35 医者 その四ヶ月のあいだ、何回性的に親密な関係をもちました？

36 フィリップ たぶん平均して週に二、三回。

37 医者
38 フィリップ
39 医者
40 フィリップ
41 医者
42 フィリップ
43 医者
44 フィリップ
45 医者
46 フィリップ
47 医者
48 フィリップ

で何がその……関係を終わらせたんですか？
僕です。僕が終わらせました。
一致協力して、二人が共有する性癖と闘った。
はい。

その男性とは連絡を絶っていますか？つまり、彼を生活からすっかり遠ざけることができているんですか？

はい。
頭のなかから消し去っていますか？

はい？
頭のなかからすっかり彼を消し去っていますか？性的な空想を。

ええ。どうか。
その関係が終わって以来、べつの男と性行為をしたことはありませんか？

いいえ。いいえ、ありません。

間。

49 医者

まずはお祝いを申し上げます、あなたがしかるべき手を打って今日ここへいらしたことです。きつと楽ではなかったでしょう。大変苦労されたはずだ。しかしこの厄介な敵、この倒錯との闘いはあなたの人格形成において不可欠な部分を占めている。あなたも同意されるでしょう。

フィリップは何も言わない。

50 医者

必要なものは持参されましたね。

51 フィリップ

はい、持ってきました。着替え。歯ブラシ。

52 医者

よろしい。すぐ看護婦がお部屋へ案内します。部屋はシンプルです。禁欲的。持ち込み品はなし。ベッド一台。以上。窓もなし。事前に歯を磨くといいでしょう。それからご自分のパジャマに着替えて。もちろんふさわしいものは提供できますが。着るものなら。

55 フィリップ

パジャマを持ってきました。

56 医者

よろしい。

間。

57 医者

部屋に写真集が何冊あります。ぜひともそれを見てください。ポルノ的なものです、同性愛的内容の。約一時間、部屋に一人きりでいてもらいます。そのあいだできるだけ写真を見ましようか。きつと興奮するでしょう。

間。

58 医者

一時間後、午後九時ごろに看護婦がうかがって注射をします、アポモルフィネをたっぷり注射から十分か十五分経つと気持ち悪くなるでしょう。強烈な吐き気、ひよつとすると目まいた。しかしわたしの発見では、治療が最も効果を上げるには、そういうものを提供しないのがいちばんです。部屋のなかに吐けば、自分の吐いたものに囲まれたまま、朝まで治療を続けることになりえます。注射をしてひとしきり吐いたあと、肝心なのはポルノ写真を見続けること。二時間したら、また看護婦がうかがって二回目の注射をします。これが朝まで三回くり返される。

間。

59 医者 何か質問は？

60 フィリップ はい……僕は……デイヴィーズ先生に聞いたんですが、いくつか事例が。特定の個人が関わっている。

63 医者 写真は持参されましたね。その特定の個人の。

64 フィリップ はい。持ってきました。

65 医者 そう。まあ、それならまったく簡単です。写真を持って入ってください。その人物の。――

間。

67 フィリップ ですが、先生……

68 医者 はい？

69 フィリップ わたしが知りたいのは……他のこと。他の気持ち。つまり、性的なものに限らない感情。
70 医者 ええ。

71 フィリップ そうというのは……いつかは……

ぎこちない間がある。

72 医者 看護婦は準備できています。朝またお会いしましょう。

73 フィリップ はい。

74 医者 ほかにはありませんね？

75 フィリップ ありません。

フィリップ立ち上がる。

76 医者 ところで……ここへいらした理由をうかがっても？ 何をきっかけに来ようと決心されました？

間。

79 フィリップ 忘れるために。

80 医者 忘れるため？

81 フィリップ もっと楽に生きたくて。

82 医者 みんなそうでしょう？

83 フィリップ そうですね。

二人、部屋から出て行く。

第10場 二〇〇八年

公園のベンチ——前と同じベンチである。シルヴィアがオリヴァーと二人で座っている。二人はシャンパンの栓を抜いたところであり、フルートグラスで飲んでいる。背景からはプライド・パーティーの喧噪がいろいろと聞こえてくる——口笛、叫び声、音楽。セレブレーションの音。

7 シルヴィア でその一時間後、ジェニファアの家でディナーしてて――

8 オリヴァー あんな子とよくいつまでも友達でいるわ……

——同性婚の話になったのね。そこにハリーとかいう男がいて言うの、だいたいこんなようなこと。「ま、遺産相続の問題はもつともだろうけど、それ以外のことはあいつら関心ないだろ」って、どういう意味よ、「だってき、やつらのほとんどは楽しくやりたいだけだろ」って、そしたらソーニャまで話に加わってきてき、これはそのまま引用するね、「あたしの親友も何人かゲイだけど」……

10 オリヴァー 元彼もほとんどね。

「なんで結婚する必要があるんだろうね、てかパートナーシップで十分じゃない?」、そしてまたハリーが出てきて、「だいたい誰が結婚なんかしたがんの?」って、「公園で盛り合っ
てりゃいいじゃん、俺ならそうしたい。」、そしてみんな大爆笑、そこでわたし立ち上がったの。両足でしっかり立ち上がって……
片足じゃかつこわりーもんね。

13 シルヴィア 言ってやったの、「ハリー、彼らの多くが公園にいた理由はそもそももうちに居場所がなかった

「からなんだよ。追放の身だったの。」

14 オリヴァー「追放の身」。いいわーそれ。

「ただ、そいつら見てたらさ、バカではないの、てゆーか、想像力がちよつと足りないんだろ
うけど必ずしもバカとは言えないわけ、で考えたんだよね……」

16 オリヴァー 考えたって何を……？

うーん、わかんない。でも考えたの、オリー、これまでにどれだけの闘いがくり広げられたか。何と闘ってきたのか。ヘイトだけじゃない、他にもある、もっと静かだけなかなか消えないもの。あんたが何者であるか決めつける世界。あいつらの言うこと聞いてると、あんたをおとしめてんの。そしてどっかであんたも、オリー、あいつらの言うことを信じてる。僕ってだまされやすい、それはほんと。

19 シルヴィア　だからわたし考えたの、
　　いったいどういふことのために闘いはくり広げられたのか。何のた

めの鬨いだったか。

20 オリヴァー それは考えまくったねー。

彼女のシャンパンを注ぎ足す。

21 オリヴァー もっと飲みな。そろそろ街頭演説は終了願います。

フィリップ登場。

22 フィリップ あっちのほうまで響いてたよ。

23 オリヴァー
さすが女優。

24 シルヴィア
声でかかった？

25
フイリップ
見事にね。

26 シルヴィア
やあだ。わたしつていかにもだわ。

間。

27 フィリップ
サンドイッチ持ってきたよ。
28 シルヴィア
オリヴァーもすこしくってくれた。マリオは向かってる。
29 オリヴァー
具は何？
30 フィリップ
チョリソー。鴨。タブナード。
31 シルヴィア
チーズとピクルスの何が悪いのよ？
32 フィリップ
ブルーベリーもあるよ。
33 オリヴァー
うまそ。

間。三人座る。

34 シルヴィア
昨日ね、マリオがまた子供の話をするの。
35 フィリップ
子供？
36 シルヴィア
「ずっと子供がほしかった」って。
37 オリヴァー
ぞっこんなの。
38 シルヴィア
わたしも愛してる。
39 フィリップ
出会ったばかりじゃないの？
40 シルヴィア
自分で歌を書くの。ギター持ってる。
41 オリヴァー
それだけわかればお腹いっぱい。
42 シルヴィア
反戦デモには必ず行ってる。本を読んで読みまくってる。
43 フィリップ
だから？
44 オリヴァー
どれもいい兆候だって言ってるんだよ。
45 シルヴィア
ベッドでも最高。
46 フィリップ
大事だね。
47 シルヴィア
マリオに愛されながら思うのね……この愛から何か生まれるとしたら……この愛がそういう
かたちで実を結ぶとしたら、だったらその覚悟はできてるし、それは素晴らしいことだ、て
ゆーか、幸運でしょ、贈りものだもん。神様からの。命って。
48 オリヴァー
赤ちゃんつくるんだってさ。
49 シルヴィア
でもそうならなくても、授からなくてもかまわない。いまわたしたちが手にしてるもので十
分、ってこと。

間。シルヴィアはふと、彼らを二人にすべきだと気づく。

50 シルヴィア
わたし……アイスクリーム買ってくる。
51 オリヴァー
アイスクリーム？ランチもまだじゃん。
52 フィリップ
シルヴィアはアイスクリームがほしいんだよ、オリヴァー。
53 オリヴァー
僕も行く。
54 シルヴィア
僕も？何、僕も行くって？
55 オリヴァー
僕も食べたい。
56 シルヴィア
馬鹿か。
57 オリヴァー
あ、そうだ。ストーカーはやめるんだった。
58 フィリップ
ストーカー？
59 オリヴァー
さっさと行けば。あんたはもう自由な女。
60 シルヴィア
ようやく。
63 オリヴァー
お近づきになれてよかったです。

シルヴィアは去ろうとする。

64 シルヴィア シャンパン飲んで。空けちゃって。

65 オリヴァー オッケ。

66 フィリップ そうする。

67 シルヴィア 闘いを思い出すんだよ、オリー。

68 オリヴァー 何の闘い？

シルヴィアは去る。

69 オリヴァー ああ、あの闘いか。

間。

70 オリヴァー やっ。

71 フィリップ よっ。

72 オリヴァー どう？

73 フィリップ 元気。元気だよ。

74 オリヴァー そう。

長い間。二人公園を見渡す。

81 オリヴァー 変化って信じる？

82 フィリップ 変化って信じる？

83 オリヴァー ありがたいよね、僕らって？

84 フィリップ ありがたい？

85 オリヴァー つまり、考えてみて。この自由。僕らが手にしてる。

86 フィリップ どんな自由？

87 オリヴァー 声を上げられない人たちがいた。何百年も、何千年も。

88 フィリップ 世界の大部分ではないも。声を上げられない。

89 オリヴァー そう。だからなおさら……

90 フィリップ なおさら何？

91 オリヴァー 大切だ、ってことかな。いらないものといっしょに大切なものを捨ててしまわないことが。

僕らにとって。ついてきてる？

いまいち。

92 フィリップ ほら、大自然のドキュメンタリーとか見るとき……

93 オリヴァー 大自然のドキュメンタリー？

94 フィリップ だから、みんな馬鹿みたいに殺し合ってるでしょ。そんなことばっか。殺し合い。あと繁殖

95 オリヴァー と。とんでもない苦痛を与え合って殺し合って……

イルカを除けば。

96 フィリップ たしかに。イルカは年じゅう自閉症の子供と泳いでる。でもイルカを除けば殺し合いばっか

97 オリヴァー りしてる。でも一つだけ、つまり、ただ一つだけ僕らを区別してるもの、僕らをちがうもの

に、僕らを人間にしているもの、それは、何をするにも愛を込めて、愛を与えるってこと。そして

て何かしらのリスペクト。僕らにはそれしかない。互いに耳を傾けること。

間。

98 オリヴァー
 99 フィリップ
 100 オリヴァー
 101 フィリップ
 102 オリヴァー
 とにかくそういうこと。こないだ言おうとしたのもそういうこと。
 何？
 僕らが出会った夜のこと。あのバレスチナの女性のこと話してくれた。君が写真に撮った人。
 彼女の立場に身を置く君の力。本物だった。
 ああ、あれ。
 おかげで僕は希望を感じた。

間。

103 オリヴァー
 104 フィリップ
 105 オリヴァー
 106 フィリップ
 107 オリヴァー
 108 フィリップ
 109 オリヴァー
 110 フィリップ
 111 オリヴァー
 まだ質問に答えてくれてない。
 何の？
 人は変化するって信じる？
 そうじゃなかった。変化を信じるかって質問だった。人は変化するかじゃなくて。
 微調整。
 どうして？
 それは、ほら。僕たち。
 俺たちが何？
 だから……

間。

112 オリヴァー
 すごく愛してる。心の底から。

間。

113 フィリップ
 114 オリヴァー
 115 フィリップ
 116 オリヴァー
 117 フィリップ
 118 オリヴァー
 119 フィリップ
 120 オリヴァー
 121 フィリップ
 122 オリヴァー
 123 フィリップ
 124 オリヴァー
 125 フィリップ
 126 オリヴァー
 127 フィリップ
 128 オリヴァー
 今日なんでここ来ちゃったのかなー。
 この魅力じゃない？
 「魔力」だと思うけど。
 チャーミングだし。
 チャラくもなる。
 それはそれは。
 うぬぼれ屋。
 素敵。
 しかもセックス中毒、知らないやつとばっかり。
 それはずっと思ってた。
 でも俺は「疑わしきは罰せず」にしちゃうんだよな。
 感謝です。篤い信仰心に。
 どこまでも頑固な愚かさにね。
 とてもかしこいよ、頑固なりに。
 てゆーか完全に頭おかしい。
 かもね。

間。そしてオリヴァーはふと感情に呑み込まれる。立ち上がる。

129 フィリップ
 130 オリヴァー
 131 フィリップ
 何？
 何も……僕……
 何なの？

132 オリヴァー 何も。もしよかったら……
 133 フィリップ よかったら何？
 134 オリヴァー しばらく君んちのソファで寝てもいい？
 135 フィリップ うちのソファで？
 136 オリヴァー 仕事。稼がないかも。いろいろと……自分の本にかかりたくて。
 137 フィリップ てつきり、仕事がたくさん入ってきてると……
 138 オリヴァー みんななんかポシャっちゃって。
 139 フィリップ 僕らしくないけど。とにかく厳しくなるかもしれない。しばらくは。
 140 オリヴァー オッケ。でも絶対ソファで。
 了解。

間。フィリップ、立ち上がる。

141 フィリップ なんだかんだいって……
 142 オリヴァー 何？
 143 フィリップ うん、長くはないのかもしれない……
 144 オリヴァー 何が？
 145 フィリップ 一年半って。
 146 オリヴァー 十九ヶ月。今度の木曜日で。
 147 フィリップ 僕たち知り合ってから。
 148 オリヴァー 結構な年月だよ。
 149 フィリップ 大したことないのかもしれないけど……
 150 オリヴァー けど？
 151 フィリップ それなりの歴史だ。
 152 オリヴァー うん。
 153 フィリップ 君と俺には……
 154 オリヴァー 僕たちには？
 155 フィリップ それなりの歴史がある。

間。

156 フィリップ それにごめん。
 157 オリヴァー 何が？
 158 フィリップ わからない。もし……もし俺が何かしたなら。一度でも。傷つけたり。不安にさせたり。わ
 159 オリヴァー 僕を裏切った。
 160 フィリップ 君を裏切った？
 161 オリヴァー そう。
 162 フィリップ それってどういう……
 163 オリヴァー 気にしないで。

間。二人は公園を見渡し、周囲の人々を見る。オリヴァーはフィリップにシャンパンを
 一杯注ぐ。

164 オリヴァー シャンパン飲んだら。
 165 フィリップ だな、飲もう。

二人座る。公園を眺め続ける。

166 オリヴァー あの人見える？ 自転車乗ってる。

167 フィリップ ラブラブだ。

168 オリヴァー ブロンドのほうが相手の耳に舌入れてる、僕らが着いたときから。

169 フィリップ めろめろ。

170 オリヴァー 素敵だね。

171 フィリップ あの人九十五歳は行ってるね。

172 オリヴァー 誰？

173 フィリップ あそこの人。アイスクリームのバンのそば。

174 オリヴァー わかんない。

175 フィリップ 二時の方角。メッシュのタンク。

176 オリヴァー え、あの人。オーマイガー。

177 フィリップ 九十五歳。

178 オリヴァー かつこいい。サバイバーだ。

179 フィリップ 彼に祝福を。

180 オリヴァー 僕が九十五歳であのルックスならパーティーひらくね。

181 フィリップ 君が九十五歳であのルックスなら逮捕してもらうよ。

オリヴァー、フィリップの膝に手を置く。

フィリップ、オリヴァーのその上に手を重ねる。

シルヴィアが戻ってくるが、一九五〇年代の彼女の生まれ変わりである。

ネグリジェを着て、小さなスーツケースを提げている。オリヴァーとフィリップには見えないが、彼女は舞台の反対側、照明の輪のなかに入ってたらずむ。夢遊病者のようである。

182 シルヴィア

わたしがつぎに目を覚ましたら、旅立ちのとき。あなたはきつとまだ眠ってる。その額にわたしはキスをして静かに歩き出す。いままでのあなたを責めることはできない。あなたは恐怖のとりこだった。ひたすら現実につきりつくしかなかったの、そしてすがりついたものはみんなその手のなかで死んでしまった。

産みの苦しみ——あなたはそんな痛みに耐えながら、変わりゆく現実にしがみつく。そしてわたしにできるのは遠くからささやくことだけ——心配はいらない、心配はいらない、心配はいらない。

シルヴィア、部屋を出て行く。

終わり